注３ **大学番号：私０９０**

認可

[平成２８年度設置]
計画の区分： 学部の学科の設置
注１

東京医療学院大学　保健医療学部　看護学科
注２

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人常陽学園
令和元年５月１日現在

作成担当者
担当部局（課）名　事務局
職名・氏名　事務局長　永田（ナガタ）　健二郎（ケンジロウ）
電話番号　０４２－３７３－８１１８
（夜間）　０４２－３７３－８１１８
ＦＡＸ　０４２－３７３－８１１１
ｅ－mail　soumu@u-ths.ac.jp

（注）１　「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
２　大学院の場合は、表題を「○○大学大学院　・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し，その下欄に（　）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例）　○○大学　△△学部　□□学科
（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例）
・大学の設置の場合：「○○大学」
・学部の設置の場合：「○○大学　△△学部」
・学部の学科の設置の場合：「○○大学　△△学部　□□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「○○短期大学　△△学科」
・大学院設置の場合：「○○大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「○○大学大学院　○○研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「○○大学大学院　○○研究科　○○専攻（修士課程）」
・通信教育課程の開設の場合：「○○大学　△△学部　□□学科（通信教育課程）」
３　大学番号の欄については、平成３１年４月２日付事務連絡「履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

保健医療学部

＜看護学科＞　　ページ

１．調査対象大学等の概要等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２．授業科目の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

３．施設・設備の整備状況、経費　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１

４．既設大学等の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２２

５．教員組織の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３

６．附帯事項等に対する履行状況等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４７

７．その他全般的事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５３

1　調査対象大学等の概要等

（1）設　置　者

学校法人　常陽学園

（2）大　学　名

東京医療学院大学

（3）調査対象大学等の位置

〒２０６－００３３
東京都多摩市落合４丁目１１番

（注）・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（　）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

（4）管理運営組織

職　　名	設　　置　　時	変　更　状　況	備　　考
理 事 長	ワタナベ　ケンジ 渡邊　賢二 （平成２２年９月１６日就任）		
学　　長	サクマ　ヤスオ 佐久間　康夫 （平成２４年４月１日就任）	セキネ　イクオ 関根　郁夫 （平成３１年４月１日就任）	任期満了による変更（元）
学 部 長	カトウ　マサカツ 加藤　昌克 （平成２８年４月１日就任）	イマイズミ　サトシ 今泉　敏 （平成３１年４月１日就任）	任期満了による変更（元）
学科長等	サクライ　ミヨコ 櫻井　美代子 （平成２８年４月１日就任）		

（注）・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（　）書きで記入してください。
（例）平成３０年度に報告済の内容　→（30）
令和元年度に報告する内容　→（元）
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に，「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

（５）　調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

（注）・　当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
・　なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
・　様式は、平成２７年度開設の４年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの５年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が４年以下の場合には欄を削除し、５年以上の場合には、欄を設けてください。）
・　留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・　短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

（５）－①　調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備　考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
保健医療学部 看護学科 学士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	年 4	人 80	年次 人 —	人 320	

（注）・　定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（　）書きで記入してください。
・　基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・　学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
・　「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第２号（その２の１））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

（５）－②　調査対象学部等の入学者の状況

区分＼対象年度	平成２８年度		平成２９年度		平成３０年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備　考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A　入学定員	人 80 （ － ） [－]	人	人 80 （ － ） [－]	人	人 80 （ － ） [－]	人	人 80 （ － ） [－]	人	1.05倍	—倍	
志願者数	158 （ － ） [－]	（ － ） [－]	467 （ － ） [－]	（ － ） [－]	426 （ － ） [－]	（ － ） [－]	506 （ － ） [－]	（ － ） [－]			
受験者数	140 （ － ） [－]	（ － ） [－]	417 （ － ） [－]	（ － ） [－]	392 （ － ） [－]	（ － ） [－]	473 （ － ） [－]	（ － ） [－]			
合格者数	128 （ － ） [－]	（ － ） [－]	208 （ － ） [－]	（ － ） [－]	191 （ － ） [－]	（ － ） [－]	235 （ － ） [－]	（ － ） [－]			
B　入学者数	78 （ － ） [－]	（ － ） [－]	91 （ － ） [－]	（ － ） [－]	84 （ － ） [－]	（ － ） [－]	85 （ － ） [－]	（ － ） [－]			
入学定員超過率 B／A	0.97		1.13		1.05		1.06				

（注）・　報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・　（　）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（　））書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。 該当がない年度には「－」を記入してください。
・　転入学生は記入しないでください。
・　[　　]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
・　学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
・　「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで記入してください。
・　「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
・「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「－」を記入してください。

（５）－③　調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 / 学　年	平成２８年度		平成２９年度		平成３０年度		令和元年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
１年次	78 [－] (－)	[－] (－)	91 [－] (－)	[－] (－)	84 [－] (－)	[－] (－)	85 [－] (－)	[－] (－)	・退学者は４人だったが、前年度退学者が第2学年生に１人再入学した。
２年次			78 [－] (－)	[－] (－)	88 [－] (－)	[－] (－)	81 [－] (　)	[－] (－)	
３年次					76 [－] (－)	[－] (－)	84 [－] (－)	[－] (－)	
４年次							75 [－] (－)	[－] (－)	
計	78 [－] (－)		169 [－] (－)		248 [－] (－)		325 [―] (―)		

（注）・　報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・　[　　]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
・（　）内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
・　編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
・　学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
・　「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

（５）－④　調査対象学部等の退学者等の状況

区分 / 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳 入学した年度	退学者数	うち留学生数	主な退学理由（留学生の理由は[ ]書き）
平成28年度	78 人	0 人	平成28年度	人	人	
平成29年度	169 人	5 人	平成28年度	2 人	— 人	進路変更 （2018年報告）
			平成29年度	3 人	— 人	学力不振（2018年報告）
平成30年度	248 人	9 人	平成28年度	1 人	— 人	経済的理由（1人）
			平成29年度	4 人	— 人	進路変更（１人）　その他（1人）　除籍（2人）
			平成30年度	4 人	— 人	体調不良（１人）就学意欲の低下（２人） 除籍（1人）
令和元年度	325 人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
合　計		14 人		14 人	人	

（注）・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。（在学者数から退学者数を減らす必要はありません。）
・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下（○人）」というように、その人数も含めて記入してください。
（記入項目例）・就学意欲の低下　・学力不足　・他の教育機関への入学・転学　・海外留学
・就職　・学生個人の心身に関する事情　・家庭の事情　・除籍　・その他

（５）－⑤　調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{78} = 0\ \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{5}{169} = 2.95\ \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{9}{248} = 3.62\ \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{325} = 0\ \%$$

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

2　授業科目の概要

＜保健医療学部　看護学科＞

（1）ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
教養分野	ものの見方・考え方	哲学	1前	2								1
		科学と技術	1後	1								1
		歴史学	2前	1								1
		倫理学	2前	1								1
		身体論	1前	1								1
		生命倫理	3前		1							1
		情報と人間	2前	1								1
		情報活用演習	3前		1							1
	生活と文化	家族と社会	3前		1							1
		文学の中の人間	3前		1							1
		法と人権	2後		1							1
		生活と経済学	3前		1							1
		文化と健康	1後	1								1
		東京の中の多摩を知るセミナー	1後		1							1
		芸術論	4後		1							1
	人間と環境	生物と進化	1前		1							1
		生命科学	1後	1								1
		物理学	1前		1							1
		環境科学	4後		1							1
	グローバルコミュニケーション	コミュニケーション論	1前	1								1
		日本語表現	1後	1								1
		英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ）	1前	1								1
		英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ）	1後	1								1
		英語Ⅲ（医療英語）	2前	1								1
		英語Ⅳ（日常会話）	2後	1								1
		英語Ⅴ（英語論文解読）	3前		1							1
		韓国語（基礎会話）	4後		1							1
		異文化体験セミナー	4前		1							1
	大学における学び	学習と教育	1前	1								1
		スタディスキルセミナー	1前		1		2		1			
		問題解決技法	3前		1				1	2		
		ボランタリーワークセミナー	3前		1		1		1	2		
	小計（32科目）		—	16	17	0	3	0	1	2	0	21
専門基礎分野	専門基礎科目	形態機能学Ⅰ	1前	1								1
		形態機能学Ⅱ	1前	1								1
		形態機能学Ⅲ	1後	1								1
		形態機能学Ⅳ	1後	1								1
		生化学（栄養学含）	1前	1								1
		病理学	1後	1								1
		臨床薬理学	2前	1								1
		感染免疫学	1後	2								1
		診断・治療学Ⅰ	2前	2								1
		診断・治療学Ⅱ	2前	2								1
		診断・治療学Ⅲ	2後	2								2
		臨床心理学	3前	1								1
		医療と法	2前	1								1
		保健統計学	3前		1							1

【令和元年度】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
教養分野	ものの見方・考え方	哲学	1前	2								1
		科学と技術	1後	1								1
		歴史学	2前	1								1
		倫理学	2前	1								1
		身体論	1前	1								1
		生命倫理	3前		1							1
		情報と人間	2前	1								1
		情報活用演習	3前		1							1
	生活と文化	家族と社会	3前		1							1
		文学の中の人間	3前		1							1
		法と人権	2後		1							1
		生活と経済学	3前		1							1
		文化と健康	1後	1								1
		東京の中の多摩を知るセミナー	1後		1							1
		芸術論	4後		1							1
	人間と環境	生物と進化	1前		1							1
		生命科学	1後	1								1
		物理学	1前		1							1
		環境科学	4後		1							1
	グローバルコミュニケーション	コミュニケーション論	1前	1								1
		日本語表現	1後	1								1
		英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ）	1前	1								1
		英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ）	1後	1								1
		英語Ⅲ（医療英語）	2前	1								1
		英語Ⅳ（日常会話）	2後	1								1
		英語Ⅴ（英語論文解読）	3前		1							1
		韓国語（基礎会話）	4後		1							1
		異文化体験セミナー	4前		1							1
	大学における学び	学習と教育	1前	1								1
		スタディスキルセミナー	1前		1		2		2			
		問題解決技法	3前		1				1	1		
		ボランタリーワークセミナー	3前		1		1		2	1		
	小計（32科目）		—	16	17	0	3	0	3	1	0	21
専門基礎分野	専門基礎科目	形態機能学Ⅰ	1前	1								1
		形態機能学Ⅱ	1前	1								1
		形態機能学Ⅲ	1後	1								1
		形態機能学Ⅳ	1後	1								1
		生化学（栄養学含）	1前	1								1
		病理学	1後	1								1
		臨床薬理学	2前	1								3
		感染免疫学	1後	2								1
		診断・治療学Ⅰ	2前	2								2
		診断・治療学Ⅱ	2前	2								3
		診断・治療学Ⅲ	2後	2								2
		臨床心理学	3前	1								1
		医療と法	2前	1								2
		保健統計学	3前		1							1

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
専門基礎分野	専門基礎科目	疫学	3前		1							1
		生涯発達論	1後	2								1
		社会保障論	2後	1								1
		チーム医療論	3前	1								1
		小計(18科目)	—	21	2	0	0	0	0	0	0	15
専門分野	看護の専門職性の発展の基礎	専門職の世界	1前	1			4	1	3	2		
		セルフディブロップメント	1前	1			4	1	3	2		
		キャリアディブロップメント	2後	1			2	1	3	1		
		医療チーム内のマネジメント	3前	1			3	1	5	1		
		医療以外の多職種との交流と発展	4前	1			2	1	1	2		
		キャリアマネジメント論	4前		1		1		2	1		
	看護実践の基盤	基礎看護学概論	1前	1			1					
		看護学援助論	1前	1				1				
		看護学技術論	1前	1			1					
		基礎看護学方法論Ⅰ(生活援助技術)	1前	1			1			1		
		基礎看護学方法論Ⅱ(ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ)	1後	1			1					
		基礎看護学方法論Ⅲ(臨床看護技術)	1後	1				1				
		基礎看護学方法論Ⅳ(看護の計画的展開)	1後	1					1	1		
		基礎看護学演習Ⅰ(生活援助技術)	1前	1			2	1	2	2		
		基礎看護学演習Ⅱ(ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ)	1後	1			3	1	1	1		
		基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術)	1後	1			2	1	1	2		
		基礎看護学演習Ⅳ(看護の計画的展開)	2前	1			3	1	3	1		
		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			8	3	6	3		
		基礎看護学実習Ⅱ	1前	1			8	3	6	3		
		基礎看護学実習Ⅲ	2後	2			5	4	7	4		
		成人看護学概論	2前	1			1					
		成人看護学方法論Ⅰ	2前	1					1			
		成人看護学方法論Ⅱ	2前	1								1
		成人看護学方法論Ⅲ	2後	1								1
		成人看護学方法論Ⅳ	2後	1			1		1			
		成人看護学演習	2後	1			1		2	2		
		成人看護学実習Ⅰ	3前～4前	3			1	1	2	1	2	
		成人看護学実習Ⅱ	3前～4前	3			1	1	2	1	2	
		老年看護学概論	2前	1			2					
		老年看護学援助論	2前	1				1				
		老年看護学方法論	2後	1			2			1		
		老年看護学演習	2後	1			2	2		1		
		老年看護学実習Ⅰ	3前～4前	2			2	2		1		

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
専門基礎分野	専門基礎科目	疫学	3前		1							2
		生涯発達論	1後	2								1
		社会保障論	2後	1								1
		チーム医療論	3前	1								2
		小計(18科目)	—	21	2	0	0	0	0	0	0	25
専門分野	看護の専門職性の発展の基礎	専門職の世界	1前	1			4	1	3	4		
		セルフディブロップメント	1前	1			4	1	4	4		
		キャリアディブロップメント	2前	1			3	1	3	0		
		医療チーム内のマネジメント	3前	1			2	1	5	1		
		医療以外の多職種との交流と発展	4前	1			1	0	1	1		
		キャリアマネジメント論	4後		1		1		2	1		
	看護実践の基盤	基礎看護学概論	1前	1			1					
		看護学援助論	1前	1				1				
		看護学技術論	1前	1			1					
		基礎看護学方法論Ⅰ(生活援助技術)	1前	1			1			1		
		基礎看護学方法論Ⅱ(ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ)	1後	1			1			1		
		基礎看護学方法論Ⅲ(臨床看護技術)	1後	1				1		1		
		基礎看護学方法論Ⅳ(看護の計画的展開)	1後	1			1		0	1		
		基礎看護学演習Ⅰ(生活援助技術)	1前	1			2	1	1	3		
		基礎看護学演習Ⅱ(ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ)	1後	1			3	1	1	2		
		基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術)	1後	1			2	1	1	3		
		基礎看護学演習Ⅳ(看護の計画的展開)	2前	1			3	1	2	1		
		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			6	2	5	5		1
		基礎看護学実習Ⅱ	1前	1			6	2	6	5		1
		基礎看護学実習Ⅲ	2前	2			4	2	9	6		1
		成人看護学概論	2前	1			1					
		成人看護学方法論Ⅰ	2前	1			1		1			
		成人看護学方法論Ⅱ	2前	1					1	1		0
		成人看護学方法論Ⅲ	2後	1			1		1	1		0
		成人看護学方法論Ⅳ	2後	1			2		2			
		成人看護学演習	2後	1			2		2	2		
		成人看護学実習Ⅰ	3前～4前	3			2	1	2	1		
		成人看護学実習Ⅱ	3前～4前	3			2	1	2	1		
		老年看護学概論	2前	1			1					
		老年看護学援助論	2前	1				1				
		老年看護学方法論	2後	1			1		2	0		
		老年看護学演習	2後	1			1	1	2	0		
		老年看護学実習Ⅰ	3前～4前	2			1	1	2	0		

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	選択	自由	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	兼任・兼担
専門分野	看護実践の基盤	老年看護学実習Ⅱ	3前～4前	2			2	3	1	1		
		小児看護学概論	2前	1					1			
		小児看護学方法論Ⅰ	2前	1			1		2			
		小児看護学方法論Ⅱ	2後	1					1			
		小児看護学演習	2後	1			1		2			
		小児看護学実習	3前～4前	2			2		2			
		母性看護学概論	2前	1			1					
		母性看護学方法論Ⅰ	2前	1					1			
		母性看護学方法論Ⅱ	2前	1						1		
		母性看護学演習	2後	1			1		1	1		
		母性看護学実習	3前～4前	2			1		1	2		
		精神看護学概論	2前	1			1					
		精神看護学援助論	2後	2					1			
		精神看護学演習	2後	1			1		1			
		精神看護学実習	3前～4前	2			1		1			
		在宅看護学概論	3前	1				1				
		在宅看護学方法論	3前	2					2			
		在宅看護学演習	3前	1				1	2	1		
		在宅看護学実習	3前～4前	2				1	2	1		
		医療安全論	3前	1					2			
		災害看護学	4後		1							1
		看護倫理学	4後		1							1
		公衆衛生看護学概論	3前	1								1
		統合実習Ⅰ	4後	1			7	4	8	2		
		統合実習Ⅱ	4後	2			8	4	7	2		
		助産学概論	3前		1		1					
		基礎助産学Ⅰ	3前		2		1					
		基礎助産学Ⅱ	3前		2					1		
		健康教育技法	3前		1					1		
		助産診断・技術学概論	3前		1		1					
		助産診断・技術学方法論	3前		1					1		
		助産診断・技術学演習Ⅰ	3通		2		1			1		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	3後		1		1			1		
		助産診断・技術学演習Ⅲ	3後		1		1			1		
		地域母子保健学	3後		1		1			1		
		助産管理学	3前		1		1					
		助産学実習	4通		11		1		1	1		
	看護の探求の基盤	看護の探究Ⅰ	1前	1					1		3	
		看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）	4通		5		3	1	1	1		
		看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）	4通		5		1		1	1		
		看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）	4通		5		2	2		1		
		看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）	4通		5		2		1			

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	選択	自由	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	兼任・兼担
専門分野	看護実践の基盤	老年看護学実習Ⅱ	3前～4前	2			1	1	3	0		
		小児看護学概論	2前	1			0		2			
		小児看護学方法論Ⅰ	2前	1			0		2			
		小児看護学方法論Ⅱ	2後	1					2			
		小児看護学演習	2後	1			0		2			
		小児看護学実習	3前～4前	2			1		2			2
		母性看護学概論	2前	1			1					
		母性看護学方法論Ⅰ	2前	1			1		1			
		母性看護学方法論Ⅱ	2後	1						1		
		母性看護学演習	2後	1			1		1	1		
		母性看護学実習	3前～4前	2			2		1	2		1
		精神看護学概論	2前	1			1					
		精神看護学援助論	2後	2			1		1			
		精神看護学演習	2後	1			1		1			
		精神看護学実習	3前～4前	2			1		1			
		在宅看護学概論	3前	1				0	1			
		在宅看護学方法論	3前	2					2			
		在宅看護学演習	3前	1				0	2	1		
		在宅看護学実習	3前～4前	2				0	2	1		
		医療安全論	3前	1					2			
		災害看護学	4後		1							2
		看護倫理学	4前		1							1
		公衆衛生看護学概論	3前	1								1
		統合実習Ⅰ	4前	1			7	2	10	2		
		統合実習Ⅱ	4前	2			8	2	11	2		
		助産学概論	3前		1		1					
		基礎助産学Ⅰ	3前		2		2		1			
		基礎助産学Ⅱ	3前		2		1		1	1		
		健康教育技法	3前		1					1		
		助産診断・技術学概論	3前		1		1			1		
		助産診断・技術学方法論	3前		1		1		1	1		
		助産診断・技術学演習Ⅰ	3通		2		1			1		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	3後		1		1			1		
		助産診断・技術学演習Ⅲ	3後		1		1			1		
		地域母子保健学	3後		1		1			1		
		助産管理学	3前		1		1					
		助産学実習	4通		11		1		1	1		2
	看護の探求の基盤	看護の探究Ⅰ	1前	1					1			
		看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）	4通		5		3	1	0	2		
		看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）	4通		5		2		2	1		
		看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）	4通		5		1	1	2	0		
		看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）	4通		5		1		2			

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
専門分野	看護の探求の基盤	看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）	4通		5		2		1			
		看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）	4通		5		1		1			
		看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）	4通		5			1	2	1		
		看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）	4通		5		1			1		
	小計（79科目）		—	70	68	0	9	4	9	6	3	5
合計（129科目）				107	87	0	9	4	9	6	3	40

卒業要件及び履修方法

必修科目107単位、教養分野の選択科目から13単位以上、専門基礎分野及び専門分野の選択科目から8単位（看護の探究必修選択5単位含む）以上修得し、128単位修得すること。
（履修科目の登録の上限：43単位（年間））

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
専門分野	看護の探求の基盤	看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）	4通		5		2		1			
		看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）	4通		5		1		1			
		看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）	4通		5			0	2	1		
		看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）	4通		5		1			1		
	小計（79科目）		—	70	68	0	8	2	11	6		9
合計（129科目）				107	87	0	8	2	11	6		52

卒業要件及び履修方法

必修科目107単位、教養分野の選択科目から13単位以上、専門基礎分野及び専門分野の選択科目から8単位（看護の探究必修選択5単位含む）以上修得し、128単位修得すること。
（履修科目の登録の上限：43単位（年間））

【平成２８年度】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
教養分野	ものの見方・考え方	哲学	1前	2								1
		科学と技術	1後	1								1
		歴史学	2前	1								1
		倫理学	2前	1								1
		身体論	1前	1								1
		生命倫理	3前		1							1
		情報と人間	2前	1								1
		情報活用演習	3前		1							1
	生活と文化	家族と社会	3前		1							1
		文学の中の人間	3前		1							1
		法と人権	2後		1							1
		生活と経済学	3前		1							1
		文化と健康	1後	1								1
		東京の中の多摩を知るセミナー	1後		1							1
		芸術論	4後		1							1
	人間と環境	生物と進化	1前		1							1
		生命科学	1後	1								1
		物理学	1前		1							1
		環境科学	4後		1							1
	グローバルコミュニケーション	コミュニケーション論	1前	1								1
		日本語表現	1後	1								1
		英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ）	1前	1								1
		英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ）	1後	1								1
		英語Ⅲ（医療英語）	2前	1								1
		英語Ⅳ（日常会話）	2後	1								1
		英語Ⅴ（英語論文解読）	3前		1							1
		韓国語（基礎会話）	4後		1							1
		異文化体験セミナー	4前		1							1
	大学における学び	学習と教育	1前	1								1
		スタディスキルセミナー	1前		1		2		1			
		問題解決技法	3前		1				1	2		
		ボランタリーワークセミナー	3前		1		1		1	2		
	小計（32科目）		—	16	17	0	3	0	1	2	0	22
専門基礎分野	専門基礎科目	形態機能学Ⅰ	1前	1								1
		形態機能学Ⅱ	1前	1								1
		形態機能学Ⅲ	1後	1								1
		形態機能学Ⅳ	1後	1								1
		生化学（栄養学含）	1前	1								1
		病理学	1後	1								1
		臨床薬理学	2前	1								1
		感染免疫学	1後	2								1
		診断・治療学Ⅰ	2前	2								1
		診断・治療学Ⅱ	2前	2								1
		診断・治療学Ⅲ	2後	2								2
		臨床心理学	3前	1								1
		医療と法	2前	1								1
		保健統計学	3前		1							1
		疫学	3前		1							1
		生涯発達論	1後	2								1
		社会保障論	2後	1								1
		チーム医療論	3前	1								1
	小計（18科目）		—	21	2	0	0	0	0	0	0	17

【平成２９年度】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
教養分野	ものの見方・考え方	哲学	1前	2								1
		科学と技術	1後	1								1
		歴史学	2前	1								1
		倫理学	2前	1								1
		身体論	1前	1								1
		生命倫理	3前		1							1
		情報と人間	2前	1								1
		情報活用演習	3前		1							1
	生活と文化	家族と社会	3前		1							1
		文学の中の人間	3前		1							1
		法と人権	2後		1							2
		生活と経済学	3前		1							1
		文化と健康	1後	1								1
		東京の中の多摩を知るセミナー	1後		1							1
		芸術論	4後		1							1
	人間と環境	生物と進化	1前		1							1
		生命科学	1後	1								1
		物理学	1前		1							1
		環境科学	4後		1							1
	グローバルコミュニケーション	コミュニケーション論	1前	1								1
		日本語表現	1後	1								1
		英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ）	1前	1								1
		英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ）	1後	1								1
		英語Ⅲ（医療英語）	2前	1								1
		英語Ⅳ（日常会話）	2後	1								1
		英語Ⅴ（英語論文解読）	3前		1							1
		韓国語（基礎会話）	4後		1							1
		異文化体験セミナー	4前		1							1
	大学における学び	学習と教育	1前	1								1
		スタディスキルセミナー	1前		1		2		2			
		問題解決技法	3前		1				1	2		
		ボランタリーワークセミナー	3前		1		1		1	2		
	小計（32科目）		—	16	17	0	3	0	2	2	0	22
専門基礎分野	専門基礎科目	形態機能学Ⅰ	1前	1								1
		形態機能学Ⅱ	1前	1								1
		形態機能学Ⅲ	1後	1								1
		形態機能学Ⅳ	1後	1								1
		生化学（栄養学含）	1前	1								1
		病理学	1後	1								1
		臨床薬理学	2前	1								3
		感染免疫学	1後	2								1
		診断・治療学Ⅰ	2前	2								3
		診断・治療学Ⅱ	2前	2								2
		診断・治療学Ⅲ	2後	2								2
		臨床心理学	3前	1								1
		医療と法	2前	1								2
		保健統計学	3前		1							1
		疫学	3前		1							1
		生涯発達論	1後	2								1
		社会保障論	2後	1								1
		チーム医療論	3前	1								1
	小計（18科目）		—	21	2	0	0	0	0	0	0	23

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
専門分野	看護の専門職性の発展の基礎	専門職の世界	1前	1			4	1	3	2		
		セルフディブロップメント	1前	1			4	1	3	2		
		キャリアディブロップメント	2後	1			2	1	3	1		
		医療チーム内のマネジメント	3前	1			3	1	5	1		
		医療以外の多職種との交流と発展	4前	1			2	1	1	2		
		キャリアマネジメント論	4前		1		1		2	1		
	看護実践の基盤	基礎看護学概論	1前	1			1					
		看護学援助論	1前	1				1				
		看護学技術論	1前	1			1					
		基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術）	1前	1			1			1		
		基礎看護学方法論Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	1			1					
		基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術）	1後	1				1				
		基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開）	1後	1					1	1		
		基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	1前	1			2	1	2	2		
		基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	1			3	1	1	1		
		基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	1後	1			2	1	1	2		
		基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）	2前	1			3	1	3	1		
		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			8	3	6	3		
		基礎看護学実習Ⅱ	1前	1			8	3	6	3		1
		基礎看護学実習Ⅲ	2後	2			5	4	7	4		
		成人看護学概論	2前	1			1					
		成人看護学方法論Ⅰ	2前	1					1			
		成人看護学方法論Ⅱ	2前	1								1
		成人看護学方法論Ⅲ	2後	1								1
		成人看護学方法論Ⅳ	2後	1			1		1			
		成人看護学演習	2後	1			1		2	2		
		成人看護学実習Ⅰ	3前～4前	3			1	1	2	1	2	
		成人看護学実習Ⅱ	3前～4前	3			1	1	2	1	2	
		老年看護学概論	2前	1			2					
		老年看護学援助論	2前	1				1				
		老年看護学方法論	2後	1			2			1		
		老年看護学演習	2後	1			2	2		1		
		老年看護学実習Ⅰ	3前～4前	2			2	2		1		
		老年看護学実習Ⅱ	3前～4前	2			2	3	1	1		
		小児看護学概論	2前	1					1			
		小児看護学方法論Ⅰ	2前	1			1		2			
		小児看護学方法論Ⅱ	2後	1					1			
		小児看護学演習	2後	1			1		2			

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
専門分野	看護の専門職性の発展の基礎	専門職の世界	1前	1			4	1	3	2		
		セルフディブロップメント	1前	1			4	1	3	2		
		キャリアディブロップメント	2後	1			3	1	3	0		
		医療チーム内のマネジメント	3前	1			2	1	5	1		
		医療以外の多職種との交流と発展	4前	1			2	0	1	2		
		キャリアマネジメント論	4前		1		1		1	1		
	看護実践の基盤	基礎看護学概論	1前	1			1					
		看護学援助論	1前	1				1				
		看護学技術論	1前	1			1					
		基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術）	1前	1			1			1		
		基礎看護学方法論Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	1			1					
		基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術）	1後	1				1				
		基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開）	1後	1					0	1		
		基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	1前	1			2	1	1	2		
		基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	1			3	1	0	1		
		基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	1後	1			2	1	1	2		
		基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）	2前	1			3	1	2	1		
		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			7	2	5	3		1
		基礎看護学実習Ⅱ	1前	1			7	2	6	3		0
		基礎看護学実習Ⅲ	2後	2			5	3	7	3		
		成人看護学概論	2前	1			1					
		成人看護学方法論Ⅰ	2前	1			1		1			
		成人看護学方法論Ⅱ	2前	1					1			0
		成人看護学方法論Ⅲ	2後	1			1		1			0
		成人看護学方法論Ⅳ	2後	1			2		2			
		成人看護学演習	2後	1			2		2	1		
		成人看護学実習Ⅰ	3前～4前	3			2	1	2	0		
		成人看護学実習Ⅱ	3前～4前	3			2	1	2	0		
		老年看護学概論	2前	1			1					
		老年看護学援助論	2前	1				1				
		老年看護学方法論	2後	1			1			1		
		老年看護学演習	2後	1			1	1		1		
		老年看護学実習Ⅰ	3前～4前	2			1	1		1		
		老年看護学実習Ⅱ	3前～4前	2			1	2	1	1		
		小児看護学概論	2前	1			1		2			
		小児看護学方法論Ⅰ	2前	1			1		2			
		小児看護学方法論Ⅱ	2後	1					1			
		小児看護学演習	2後	1			1		2			

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
専門分野	看護実践の基盤	小児看護学実習	3前～4前	2			2		2			
		母性看護学概論	2前	1			1					
		母性看護学方法論Ⅰ	2前	1					1			
		母性看護学方法論Ⅱ	2前	1						1		
		母性看護学演習	2後	1			1		1	1		
		母性看護学実習	3前～4前	2			1		1	2		
		精神看護学概論	2前	1			1					
		精神看護学援助論	2後	2					1			
		精神看護学演習	2後	1			1		1			
		精神看護学実習	3前～4前	2			1		1			
		在宅看護学概論	3前	1				1				
		在宅看護学方法論	3前	2					2			
		在宅看護学演習	3前	1				1	2	1		
		在宅看護学実習	3前～4前	2				1	2	1		
		医療安全論	3前	1					2			
		災害看護学	4後		1							1
		看護倫理学	4後		1							1
		公衆衛生看護学概論	3前	1								1
		統合実習Ⅰ	4後	1			7	4	8	2		
		統合実習Ⅱ	4後	2			8	4	7	2		
		助産学概論	3前		1		1					
		基礎助産学Ⅰ	3前		2		1					
		基礎助産学Ⅱ	3前		2					1		
		健康教育技法	3前		1					1		
		助産診断・技術学概論	3前		1		1					
		助産診断・技術学方法論	3前		1					1		
		助産診断・技術学演習Ⅰ	3通		2		1			1		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	3後		1		1			1		
		助産診断・技術学演習Ⅲ	3後		1		1			1		
		地域母子保健学	3後		1		1			1		
		助産管理学	3前		1		1					
		助産学実習	4通		11		1		1	1		
	看護の探求の基盤	看護の探究Ⅰ	1前	1					1		3	
		看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）	4通		5		3	1	1	1		
		看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）	4通		5		1		1	1		
		看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）	4通		5		2	2		1		
		看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）	4通		5		2		1			
		看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）	4通		5		2		1			
		看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）	4通		5		1		1			
		看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）	4通		5			1	2	1		
		看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）	4通		5		1			1		
	小計（79科目）		—	70	68	0	9	4	8	6		6

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
専門分野	看護実践の基盤	小児看護学実習	3前～4前	2			2		2			
		母性看護学概論	2前	1			1					
		母性看護学方法論Ⅰ	2前	1			1		1			
		母性看護学方法論Ⅱ	2前	1						1		
		母性看護学演習	2後	1			1		1	1		
		母性看護学実習	3前～4前	2			1		1	2		
		精神看護学概論	2前	1			1					
		精神看護学援助論	2後	2					1			
		精神看護学演習	2後	1			1		1			
		精神看護学実習	3前～4前	2			1		1			
		在宅看護学概論	3前	1				1				
		在宅看護学方法論	3前	2					2			
		在宅看護学演習	3前	1				1	2	1		
		在宅看護学実習	3前～4前	2				1	2	1		
		医療安全論	3前	1					2			
		災害看護学	4後		1							1
		看護倫理学	4後		1							1
		公衆衛生看護学概論	3前	1								1
		統合実習Ⅰ	4後	1			7	3	8	1		
		統合実習Ⅱ	4後	2			8	3	8	1		
		助産学概論	3前		1		1					
		基礎助産学Ⅰ	3前		2		1					
		基礎助産学Ⅱ	3前		2					1		
		健康教育技法	3前		1					1		
		助産診断・技術学概論	3前		1		1					
		助産診断・技術学方法論	3前		1					1		
		助産診断・技術学演習Ⅰ	3通		2		1			1		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	3後		1		1			1		
		助産診断・技術学演習Ⅲ	3後		1		1			1		
		地域母子保健学	3後		1		1			1		
		助産管理学	3前		1		1					
		助産学実習	4通		11		1		1	1		
	看護の探求の基盤	看護の探究Ⅰ	1前	1					1			
		看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）	4通		5		3	1	0	1		
		看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）	4通		5		2		2	0		
		看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）	4通		5		1	1		1		
		看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）	4通		5		2		2			
		看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）	4通		5		2		1			
		看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）	4通		5		1		1			
		看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）	4通		5			1	2	1		
		看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）	4通		5		1			1		
	小計（79科目）		—	70	68	0	9	3	8	5		4

合計(129科目)		107	87	0	9	4	8	6		43

卒業要件及び履修方法

必修科目107単位、教養分野の選択科目から13単位以上、専門基礎分野及び専門分野の選択科目から8単位(看護の探究必修選択5単位含む)以上修得し、128単位修得すること。
(履修科目の登録の上限:43単位(年間))

合計(129科目)		107	87	0	9	3	8	5		46

卒業要件及び履修方法

必修科目107単位、教養分野の選択科目から13単位以上、専門基礎分野及び専門分野の選択科目から8単位(看護の探究必修選択5単位含む)以上修得し、128単位修得すること。
(履修科目の登録の上限:43単位(年間))

【平成３０年度】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
教養分野	ものの見方・考え方	哲学	1前	2								1
		科学と技術	1後	1								1
		歴史学	2前	1								1
		倫理学	2前	1								1
		身体論	1前	1								1
		生命倫理	3前		1							1
		情報と人間	2前	1								1
		情報活用演習	3前		1							1
	生活と文化	家族と社会	3前		1							1
		文学の中の人間	3前		1							1
		法と人権	2後		1							2
		生活と経済学	3前		1							1
		文化と健康	1後	1								1
		東京の中の多摩を知るセミナー	1後		1							1
		芸術論	4後		1							1
	人間と環境	生物と進化	1前		1							1
		生命科学	1後	1								1
		物理学	1前		1							1
		環境科学	4後		1							1
	グローバルコミュニケーション	コミュニケーション論	1前	1								1
		日本語表現	1後	1								1
		英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ）	1前	1								1
		英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ）	1後	1								1
		英語Ⅲ（医療英語）	2前	1								1
		英語Ⅳ（日常会話）	2後	1								1
		英語Ⅴ（英語論文解読）	3前		1							1
		韓国語（基礎会話）	4後		1							1
		異文化体験セミナー	4前		1							1
	大学における学び	学習と教育	1前	1								1
		スタディスキルセミナー	1前		1		2		2			
		問題解決技法	3前		1				1	1		
		ボランタリーワークセミナー	3前		1		1		1	1		
	小計（32科目）		—	16	17	0	3	0	2	1		22
専門基礎分野	専門基礎科目	形態機能学Ⅰ	1前	1								1
		形態機能学Ⅱ	1前	1								1
		形態機能学Ⅲ	1後	1								1
		形態機能学Ⅳ	1後	1								1
		生化学（栄養学含）	1前	1								1
		病理学	1後	1								1
		臨床薬理学	2前	1								3
		感染免疫学	1後	2								1
		診断・治療学Ⅰ	2前	2								3
		診断・治療学Ⅱ	2前	2								3
		診断・治療学Ⅲ	2後	2								2
		臨床心理学	3前	1								1
		医療と法	2前	1								2
		保健統計学	3前		1							1
		疫学	3前		1							2
		生涯発達論	1後	2								1
		社会保障論	2後	1								1
		チーム医療論	3前	1								2
	小計（18科目）		—	21	2	0	0	0	0	0	0	26

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
専門分野	看護の専門職性の発展の基礎	専門職の世界	1前	1			4	1	3	5		
		セルフディブロップメント	1前	1			4	1	4	5		
		キャリアディブロップメント	2前	1			3	1	3	0		
		医療チーム内のマネジメント	3前	1			2	1	5	1		
		医療以外の多職種との交流と発展	4前	1			2	0	1	1		
		キャリアマネジメント論	4前		1		1		2	1		
	看護実践の基盤	基礎看護学概論	1前	1			1					
		看護学援助論	1前	1				1				
		看護学技術論	1前	1			1					
		基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術）	1前	1			1			1		
		基礎看護学方法論Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	1			1			2		
		基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術）	1後	1				1		2		
		基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開）	1後	1					0	1		
		基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	1前	1			2	1	1	4		
		基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	1			3	1	1	3		
		基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	1後	1			2	1	1	4		
		基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）	2前	1			3	1	2	1		
		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			7	2	5	6		0
		基礎看護学実習Ⅱ	1前	1			7	2	6	6		0
		基礎看護学実習Ⅲ	2前	2			5	3	8	7		
		成人看護学概論	2前	1			1					
		成人看護学方法論Ⅰ	2前	1			1		1			
		成人看護学方法論Ⅱ	2前	1					1	1		0
		成人看護学方法論Ⅲ	2後	1			1		1	1		0
		成人看護学方法論Ⅳ	2後	1			2		2			
		成人看護学演習	2後	1			2		2	2		
		成人看護学実習Ⅰ	3前～4前	3			2	1	2	1		
		成人看護学実習Ⅱ	3前～4前	3			2	1	2	1		
		老年看護学概論	2前	1			1					
		老年看護学援助論	2前	1				1				
		老年看護学方法論	2後	1			1		1	0		
		老年看護学演習	2後	1			1	1	1	0		
		老年看護学実習Ⅰ	3前～4前	2			1	1	1	0		
		老年看護学実習Ⅱ	3前～4前	2			1	2	2	0		
		小児看護学概論	2前	1			1		2			
		小児看護学方法論Ⅰ	2前	1			1		2			
		小児看護学方法論Ⅱ	2後	1					1			
		小児看護学演習	2後	1			1		2			

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
専門分野	看護実践の基盤	小児看護学実習	3前～4前	2			2		2			
		母性看護学概論	2前	1			1					
		母性看護学方法論Ⅰ	2前	1			1		1			
		母性看護学方法論Ⅱ	2後	1						1		
		母性看護学演習	2後	1			1		1	1		
		母性看護学実習	3前～4前	2			1		1	2		
		精神看護学概論	2前	1			1					
		精神看護学援助論	2後	2			1		1			
		精神看護学演習	2後	1			1		1			
		精神看護学実習	3前～4前	2			1		1			
		在宅看護学概論	3前	1				1				
		在宅看護学方法論	3前	2					2			
		在宅看護学演習	3前	1				1	2	1		
		在宅看護学実習	3前～4前	2				1	2	1		
		医療安全論	3前	1					2			
		災害看護学	4後		1							1
		看護倫理学	4後		1							1
		公衆衛生看護学概論	3前	1								1
		統合実習Ⅰ	4後	1			7	3	9	3		
		統合実習Ⅱ	4後	2			8	3	9	3		
		助産学概論	3前		1		1					
		基礎助産学Ⅰ	3前		2		2		1			
		基礎助産学Ⅱ	3前		2		1		1	1		
		健康教育技法	3前		1					1		
		助産診断・技術学概論	3前		1		1			1		
		助産診断・技術学方法論	3前		1		1		1	1		
		助産診断・技術学演習Ⅰ	3通		2		1			1		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	3後		1		1			1		
		助産診断・技術学演習Ⅲ	3後		1		1			1		
		地域母子保健学	3後		1		1			1		
		助産管理学	3前		1		1					
		助産学実習	4通		11		1		1	1		
	看護の探求の基盤	看護の探究Ⅰ	1前	1					1			
		看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）	4通		5		3	1	0	3		
		看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）	4通		5		2		2	1		
		看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）	4通		5		1	1	1	1		
		看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）	4通		5		2		2			
		看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）	4通		5		2		1			
		看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）	4通		5		1		1			
		看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）	4通		5			1	2	1		
		看護の探究Ⅸ（助	4通		5		1			1		
	小計（79科目）		—	70	68	0	9	3	10	7		3
合計（129科目）				107	87	0	9	3	10	7		48

卒業要件及び履修方法
必修科目107単位、教養分野の選択科目から13単位以上、専門基礎分野及び専門分野の選択科目から8単位(看護の探究必修選択5単位含む)以上修得し、128単位修得すること。 (履修科目の登録の上限:43単位(年間))

（注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
・ 認可申請書又は設置届出書の様式第２号（その２の１）に準じて作成してください。
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
・ １ページ目には認可時又は届出時と報告年度２つの表を記入してください。
・ 不要な年度（平成２９年度開設であれば平成２８年度）の表は適宜削除してください。
（２つの表が１ページに表示されるようにしてください。）

（1）ー②授業科目表に関する変更内容

【平成２８年度】

・講師就任辞退の理由により、「基礎看護学実習Ⅱ」の備考の兼任数を平成２８年度のみ「兼任０」から「兼任１」に変更。なお講師１名の補充が決まっているため、専任教員等の配置の変更はない。

【平成２９年度】

・教育の充実を図る為、「法と人権」の兼任教員を「兼任１」から「兼任２」に変更。
・後任補充科目の為、「スタディスキルセミナー」の専任教員等の配置を「講師１」から「講師２」に変更。
・教育の充実を図る為、「臨床薬理学」の兼任講師を「兼任１」から「兼任３」に変更。
・教育の充実を図る為、「診断・治療学Ⅰ」の兼任講師を「兼任１」から「兼任３」に変更。
・教育の充実を図る為、「診断・治療学Ⅱ」の兼任講師を「兼任１」から「兼任２」に変更。
・教育の充実を図る為、「医療と法」の兼任講師を「兼任１」から「兼任２」に変更。
・講師１名、助教１名就任辞退及び教授１名、講師１名新たに採用の理由により、「キャリアディブロップメント」の専任教員等の配置を「教授２」「助教１」から「教授３」「助教０」に変更。
・教授１名ご逝去、講師１名就任辞退及び講師１名新たに採用の理由により、「医療チーム内のマネジメント」の専任教員等の配置を「教授３」から「教授２」に変更。
・准教授１名就任辞退の理由により、「医療以外の他職種との交流と発展」の専任教員等の配置を「准教授１」から「准教授０」に変更。
・講師１名就任辞退の理由により、「キャリアマネジメント論」の専任教員等の配置を「講師２」から「講師１」に変更。
・講師１名就任辞退の理由により、「基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的発展）」の専任教員等の配置を「講師１」から「講師０」に変更。
・講師１名就任辞退の理由により、「基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）」の専任教員等の配置を「講師２」から「講師１」に変更。
・講師１名就任辞退の理由により、「基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）」の専任教員等の配置を「講師１」から「講師０」に変更。
・講師１名就任辞退の理由により、「基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）」の専任教員等の配置を「講師２」から「講師１」に変更。
・講師１名就任辞退の理由により、「基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的発展）」の専任教員等の配置を「講師３」から「講師２」に変更。

・教授１名ご逝去及び教授１名、准教授１名、講師１名就任辞退の理由により、「基礎看護学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授８」「准教授３」「講師６」から「教授７」「准教授２」「講師５」に変更。また、教育人数を確保するため兼任教員数を平成２９年度のみ採用し「兼任０」から「兼任１」に変更。
・教授１名ご逝去及び教授１名、准教授１名、講師１名就任辞退の理由により、「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授８」「准教授３」から「教授７」「准教授２」に変更。講師に関しては１名就任辞退、１名新規採用の為、専任教員等の配置の変更はない。また、出向期間満了のため「兼任１」から「兼任０」に変更。
・教授１名ご逝去及び教授１名、准教授１名、講師１名、助教１名就任辞退の理由により、「基礎看護学実習Ⅲ」の専任教員等の配置を「准教授４」「助教４」から「准教授３」「助教３」に変更。教授、講師に関しては同数の新規採用の為、専任教員等の配置の変更はない。
・教育の充実を図る為、「成人看護学方法論Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授０」から「教授１」に変更。
・兼任講師１名就任辞退の為、「成人看護学方法論Ⅱ」の兼任講師を「兼任１」から「兼任０」に変更。新たに専任講師１名が新規採用の為、専任教員等の配置を「講師０」から「講師１」に変更。
・兼任講師１名就任辞退の為、「成人看護学方法論Ⅲ」の兼任講師を「兼任１」から「兼任０」に変更。新たに教授１名、講師１名が新規採用の為、専任教員等の配置を「教授０」「講師０」から「教授１」「講師１」に変更。

・教育の充実を図る為、「成人看護学方法論Ⅳ」の専任教員等の配置を「教授１」「講師１」から「教授２」「講師２」に変更。
・講師１名、助教１名就任辞退及び教授１名、講師１名新規採用の理由により、「成人看護学演習」の専任教員等の配置を「教授１」「助教２」から「教授２」「助教１」に変更。なお講師は同数の補充の為、専任教員等の配置の変更はない。
・講師１名、助教１名就任辞退及び教授１名、講師１名新規採用の理由により、「成人看護学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授１」「助教１」から「教授２」「助教０」に変更。なお講師は同数の補充の為、専任教員等の配置の変更はない。
・講師１名、助教１名就任辞退及び教授１名、講師１名新規採用の理由により、「成人看護学実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授１」「助教１」から「教授２」「助教０」に変更。なお講師は同数の補充の為、専任教員等の配置の変更はない。
・教授１名ご逝去の理由により、「老年看護学方法論」の専任教員等の配置を「教授２」から「教授１」に変更。
・教授１名ご逝去及び准教授１名就任辞退の理由により、「老年看護学演習」の専任教員等の配置を「教授２」「准教授２」から「教授１」「准教授１」に変更。
・教授１名ご逝去及び准教授１名就任辞退の理由により、「老年看護学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授２」「准教授２」から「教授１」「准教授１」に変更。
・教授１名ご逝去及び准教授１名就任辞退の理由により、「老年看護学実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授２」「准教授３」から「教授１」「准教授２」に変更。
・教育の充実を図る為、「小児看護学概論」の専任教員等の配置を「教授０」「講師１」から「教授１」「講師２」に変更。
・教育の充実を図る為、「母性看護学方法論Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授０」から「教授１」に変更。

・教授１名ご逝去、准教授１名、講師１名、助教１名就任辞退及び教授１名、講師２名新たに採用の理由により、「統合実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授４」「助教２」から「准教授３」「助教１」に変更。なお、教授及び講師は同数の補充の為、専任教員等の配置の変更はない。
・教授１名ご逝去、准教授１名、講師１名、助教１名就任辞退及び教授１名、講師２名新たに採用の理由により、「統合実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授４」「講師７」「助教２」から「准教授３」「講師８」「助教１」に変更。なお、教授は同数の補充の為、専任教員等の配置の変更はない。
・講師１名就任辞退の為、「看護の探求Ⅱ（基礎看護学領域研究）」の専任教員等の配置を「講師１」から「講師０」に変更。
・助教１名就任辞退、後任に講師１名新たに採用、また教育の充実を図るため教授１名新たに採用の理由により、「看護の探求Ⅲ（成人看護学領域研究）」の専任教員等の配置を「教授1」「講師１」「助教０」から「教授２」「講師２」「助教０」に変更
・教授１名ご逝去及び准教授１名就任辞退の理由により、「看護の探求Ⅳ（老年看護学領域研究）」の専任教員等の配置を「教授２」「准教授２」から「教授１」「准教授１」に変更。
・教育の充実を図る為、「看護の探求Ⅴ」の専任教員等の配置を「講師１」から「講師２」に変更。

【平成３０年度】

・教育の充実を図る為、「疫学」の兼任教員を「兼任１」から「兼任２」に変更。
・教育の充実を図る為、「チーム医療論」の兼任教員を「兼任１」から「兼任２」に変更。
・教育の充実を図る為、「専門職の世界」の専任教員等の配置を「助教２」から「助教５」に変更。
・教育の充実を図る為、「セルフディブロップメント」の専任教員等の配置を「講師３」「助教２」から「講師４」「助教５」に変更。
・体系的な教育を行うことによる、教育効果向上の観点から、「キャリアディブロップメント」配当年次を「２後」から「２前」に変更。
・専任助教退職の為、「医療以外の他職種との交流と発展」の専任教員等の配置を「助教２」から「助教１」に変更。
・後任補充科目の為、「キャリアマネジメント論」の専任教員等の配置を「講師１」から「講師２」に変更。
・教育の充実を図る為、「基礎看護学方法論Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）」の専任教員等の配置を「助教０」から「助教２」に変更。
・教育の充実を図る為、「基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術）」の専任教員等の配置を「助教０」から「助教２」に変更。
・後任補充科目及び教育の充実を図る為、「基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）」の専任教員等の配置を「助教２」から「助教４」に変更。
・後任補充科目及び教育の充実を図る為、「基礎看護学演習Ⅱ（臨床看護技術）」の専任教員等の配置を「講師０」「助教1」から「講師１」「助教３」に変更。
・教育の充実を図る為、「基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）」の専任教員等の配置を「助教２」から「助教４」に変更。
・後任補充科目及び教育の充実を図る為、「基礎看護学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教３」から「助教６」に変更。
・後任補充科目及び教育の充実を図る為、「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教３」から「助教６」に変更。
・教育の充実を図る為、「基礎看護学実習Ⅲ」の専任教員等の配置を「講師７」「助教３」から「講師８」「助教７」に変更。
・体系的な教育を行うことによる、教育効果向上の観点から、「基礎看護学実習Ⅲ」配当年次を「２後」から「２前」に変更。

・教育の充実を図る為、「成人看護学方法論Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教０」から「助教１」に変更。
・教育の充実を図る為、「成人看護学方法論Ⅲ」の専任教員等の配置を「助教０」から「助教１」に変更。
・後任補充科目の為、「成人看護学演習」の専任教員等の配置を「助教１」から「助教２」に変更。
・後任補充科目の為、「成人看護学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教０」から「助教１」に変更。
・後任補充科目の為、「成人看護学実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教０」から「助教１」に変更。
・後任補充科目及び専任助教退職の為、「老年看護学方法論」の専任教員等の配置を「講師０」「助教１」から「講師１」「助教０」に変更。
・後任補充科目及び専任助教退職の為、「老年看護学演習」の専任教員等の配置を「講師０」「助教１」から「講師１」「助教０」に変更。
・後任補充科目及び専任助教退職の為、「老年看護学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「講師０」「助教１」から「講師１」「助教０」に変更。
・後任補充科目及び専任助教退職の為、「老年看護学実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「講師０」「助教１」から「講師１」「助教０」に変更。
・体系的な教育を行うことによる、教育効果向上の観点から、「母性看護学方法論Ⅱ」配当年次を「２前」から「２後」に変更。
・教育の充実を図る為、「精神看護学援助論」の専任教員等の配置を「教授０」から「教授１」に変更。
・教育の充実を図る為、「統合実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「講師８」「助教１」から「講師９」「助教３」に変更。
・教育の充実を図る為、「統合実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「講師８」「助教１」から「講師９」「助教３」に変更。
・教育の充実を図る為、「基礎助産学Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授１」「講師０」から「教授２」「講師１」に変更。
・教育の充実を図る為、「基礎助産学Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授０」「講師０」から「教授１」「講師１」に変更。

・教育の充実を図る為、「助産診断・技術学概論」の専任教員等の配置を「助教０」から「助教１」に変更。
・教育の充実を図る為、「助産診断・技術学方法論」の専任教員等の配置を「教授０」「講師０」から「教授１」「講師１」に変更。
・後任補充科目及び教育の充実を図る為、「看護の探求Ⅱ（基礎看護学領域研究）」の専任教員等の配置を「助教１」から「助教３」に変更。
・教育の充実を図る為、「看護の探求Ⅲ（成人看護学領域研究）」の専任教員等の配置を「助教０」から「助教１」に変更。
・後任補充科目の為、「看護の探求Ⅳ（老年看護学領域研究）」の専任教員等の配置を「講師０」から「講師１」に変更。

【令和元年度】

・兼任教員1名就任辞退の為、「法と人権」の兼任教員を「兼任２」から「兼任１」に変更。
・教育の充実の為、「診断治療学Ⅱ」に兼任教員を「兼任２」から「兼任３」に変更（昨年度記載漏れ）
・専任助教退職の為、「問題解決技法」の専任教員等の配置を「助教２」から「助教１」に変更。（昨年度記載漏れ）
・専任助教退職の為、「ボランタリーワークセミナー」の専任教員等の配置を「助教２」から「助教１」に変更。（昨年度記載漏れ）補充として専任講師１名配置の為、専任教員等の配置を「講師１」から「講師２」に変更。
・兼任講師２名就任辞退、また新たに兼任講師１名就任の為、「診断治療学Ⅰ」兼任教員等の配置を「兼任３」から「兼任２」に変更。
・専任助教退職の為、「専門職の世界」の専任教員等の配置を「助教５」から「助教４」に変更。
・専任助教退職の為、「セルフディブロップメント」の専任教員等の配置を「助教５」から「助教４」に変更。
・専任教授退職の為、「医療以外の多職種との交流と発展」の専任教員の配置を「教授２」から「教授１」に変更。
・体系的な教育を行うことによる、教育効果向上の観点から、「キャリアマネジメント論」配当年次を「４前」から「４後」に変更。
・専任助教退職の為、「基礎看護学方法論Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）」の専任教員等の配置を「助教２」から「助教１」に変更。
・専任助教退職の為、「基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術）」の専任教員等の配置を「助教２」から「助教１」に変更。
・後任補充科目の為、「基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開）」の専任教員等の配置を「教授０」から「教授１」に変更。
・専任助教退職の為、「基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）」の専任教員等の配置を「助教４」から「助教３」に変更。
・専任助教退職の為、「基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）」の専任教員等の配置を「助教３」から「助教２」に変更。
・専任助教退職の為、「基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）」の専任教員等の配置を「助教４」から「助教３」に変更。
・専任教授１名、専任助教1名退職の為、「基礎看護学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授７」から「教授６」、「助教６」から「助教５」に変更。また補充のため「兼任０」から「兼任１」に変更。
・専任教授１名、専任助教1名退職の為、「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授７」から「教授６」、「助教６」から「助教５」に変更。また補充のため「兼任０」から「兼任１」に変更。
・専任教授１名、専任准教授１名、専任助教1名退職及び補充として専任講師１名、兼任講師１名配置の為、「基礎看護学実習Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授５」から「教授４」、「准教授３」から「准教授２」、「講師８」から「講師９」、「助教７」から「助教６」、「兼任０」から「兼任１」に変更。
・後任補充科目の為、「老年看護学方法論」の専任教員等の配置を「講師１」から「講師２」に変更。
・後任補充科目の為、「老年看護学演習」の専任教員等の配置を「講師１」から「講師２」に変更。
・後任補充科目の為、「老年看護学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「講師１」から「講師２」に変更。
・専任准教授１名退職及び専任講師１名就任の為、「老年看護学実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授２」から「准教授１」、「講師２」から「講師３」に変更。

・専任教授退職の為、「小児看護学概論」の専任教員等の配置を「教授１」から「教授０」に変更。
・専任教授退職の為、「小児看護学方法論Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授１」から「教授０」に変更。
・教育の充実を図る為、「小児看護学方法論Ⅱ」の専任教員等の配置を「講師１」から「講師２」に変更。
・専任教授退職の為、「小児看護学演習」の専任教員等の配置を「教授１」から「教授０」に変更。
・専任教授退職の為、「小児看護学実習」の専任教員等の配置を「教授２」から「教授１」に変更。補充のため「兼任０」から「兼任２」に変更。令和元年１０月就任を目標に専任教員を公募中。
・教育の充実を図る為、「母性看護学実習」の専任教員等の配置を「教授１」から「教授２」、「兼任０」から「兼任１」に変更。
・専任准教授１名退職及び補充として専任講師１名配置の為、「在宅看護学概論」の専任教員等の配置を「准教授１」から「准教授」、「講師０」から「講師１」に変更。
・専任准教授退職の為、「在宅看護学演習」の専任教員等の配置を「准教授１」から「准教授０」に変更。
・専任准教授退職の為、「在宅看護学実習」の専任教員等の配置を「准教授１」から「准教授０」に変更。
・教育の充実を図る為、「災害看護学」の兼任教員の配置を「兼任１」から「兼任２」に変更。
・体系的な教育を行うことによる、教育効果向上の観点から、「看護倫理学」配当年次を「４後」から「４前」に変更。
・体系的な教育を行うことによる、教育効果向上の観点から、「統合実習Ⅰ」配当年次を「４後」から「４前」に変更。
・専任教授１名、専任准教授１名、専任助教１名退職及び専任教授１名、専任講師１名補充の為、「統合実習Ⅰ」の専任教員の配置を「准教授３」から「准教授２」、「講師９」から「講師１０」「助教３」から「助教２」に変更。
・体系的な教育を行うことによる、教育効果向上の観点から、「統合実習Ⅱ」配当年次を「４後」から「４前」に変更。
・専任教授１名、専任准教授１名、専任助教１名退職及び専任教授１名、専任講師２名補充の為、「統合実習Ⅱ」の専任教員の配置を「准教授３」から「准教授２」、「講師９」から「講師１１」、「助教３」から「助教２」に変更。
・補充科目の為、「助産学実習」に教員配置の兼任講師を「兼任０」から「兼任２」に変更。令和元年１０月就任を目標に専任教員を公募中。
・専任助教退職の為、「看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）」の専任教員等の配置を「助教３」から「助教２」に変更。
・専任助教退職の為、「看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）」の専任教員等の配置を「助教１」から「助教０」に変更。（昨年度記載漏れ）補充として専任講師１名配置の為、専任教員等の配置を「講師１」から「講師２」に変更。
・専任教授退職の為、「看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）」の専任教員等の配置を「教授２」から「教授１」に変更。
・専任准教授退職の為、「看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）」の専任教員の配置を「准教授１」から「准教授０」に変更。

（注）・　２（１）―① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・　変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・　不要な年度（平成２９年度開設であれば平成２８年度）の表は適宜削除してください。

（２）授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
87 科目	42 科目	0 科目	129 科目	87 科目 [0]	42 科目 [0]	0 科目 [0]	129 科目 [0]	

（注）・　未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに，［　］内に，設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：１科目減の場合：△１）

（3） 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

（注） ・ 配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。
・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

（4） 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

（注） ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

（5） 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

（注） ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

（6） 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（3）と廃止科目（4）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（A）}} = \frac{0}{129} = 0\%$$

（注） ・ 小数点以下第３位を切り捨て，小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（3）未開講科目」と「（4）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3　施設・設備の整備状況，経費

区分		内容				備考
(1) 校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	校地等は多摩市から借用 面積：23,347㎡ 期間：H21.4から30年間
	校舎敷地	13,578㎡	㎡	㎡	13,578㎡	
	運動場用地	5,880㎡	㎡	㎡	5,880㎡	
	小計	19,458㎡	㎡	㎡	19,458㎡	
	その他	3,889㎡	㎡	㎡	3,889㎡	
	合計	23,347㎡	㎡	㎡	23,347㎡	
(2) 校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	校舎の一部は多摩市から借用 面積：4,539.65㎡ 期間：H21.4から30年間
		11,397.97㎡ (11,397.97㎡)	㎡ (　　㎡)	㎡ (　　㎡)	11,397.97㎡ (11,397.97㎡)	

(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	備考
	20室	14室	15室	1室 (補助職員　－人)	一室 (補助職員　－人)	大学全体

(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	備考
	保健医療学部　看護学科	28室	

(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	備考
	保健医療学部	13,285〔2,183〕 (13,285〔2,183〕)	129〔38〕 (129〔38〕)	14〔14〕 (14〔14〕)	168 (168)	5,318 (5,318)	69 (69)	学科単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	13,285〔2,183〕 (13,285〔2,183〕)	129〔38〕 (129〔38〕)	14〔14〕 (14〔14〕)	168 (168)	5,318 (5,318)	69 (69)	

(6) 図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	備考
	436.36㎡	105	30,000	大学全体 体育館は多摩市から借用 面積:784.25㎡ 期間:H21.4から30年間

(7) 体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	784.25㎡	－	－

(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	備考
経費の見積り	教員１人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	18,000千円	5,000千円	5,000千円	図書購入費には電子ｼﾞｬｰﾅﾙ14契約（14ﾀｲﾄﾙ）・ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの整備費（運用ｺｽﾄ含む）を含む。
	共同研究費等	3,000千円	3,000千円	設備購入費	115,181千円	－千円	－千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,930千円	1,630千円	1,630千円	1,630千円	― 千円	― 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	資産運用収入、雑収入　等

（注）・　設置時の計画を、申請書の様式第２号（その１の１）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（１）校地等」及び「（２）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はＡＣ対象学部等の数値を記入してください。）

・　運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。

・　「(５)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年５月１日現在の数値を記入してください。

・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（元）」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

・　校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。

・　国立大学については「（８）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

４．既設大学等の状況

大学の名称	東京医療学院大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
保健医療学部	4	200	—	760		1.03		平成24	東京都多摩市落合4-11	
リハビリテーション学科	4	120	—	440		1.01	平成30年度	平成24	同上	※平成３０年度より入学定員増 １００→１２０
理学療法学専攻	4	90	—	320	学士（理学療法学）	1.11	平成30年度	平成24	同上	※平成３０年度より入学定員増 ７０→９０
作業療法学専攻	4	30	—	120	学士（作業療法学）	0.74		平成24	同上	
看護学科	4	80	—	320	学士（看護学）	1.05		平成28	同上	

（注）・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の５月１日現在の状況を記入してください。（専攻科及び別科を除く）。

・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

・本年度ＡＣ対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。

・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。

・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5　教員組織の状況

＜保健医療学部　看護学科＞

（1）－① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	和賀　徳子 ＜平成28年４月＞ 修士（学術）	スタディスキルセミナー 問題解決技法 ボランタリーワークセミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアディブロップメント 医療チーム内のマネジメント 医療以外の多職種との交流と発展 キャリアマネジメント論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 医療安全論※ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅰ
専	教授	川守田　千秋 ＜平成28年４月＞ 修士（都市科学）	専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアマネジメント論 看護学技術論 基礎看護学方法論Ⅱ （ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅰ （生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ （ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ （臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ （看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	教授	佐藤　和子 ＜平成28年４月＞ 修士（教育学）	スタディスキルセミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアディブロップメント 基礎看護学演習Ⅳ （看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究） 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）

【平成２８年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	和賀　徳子 ＜平成28年４月＞ 修士（学術）	スタディスキルセミナー 問題解決技法 ボランタリーワークセミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアディブロップメント 医療チーム内のマネジメント 医療以外の多職種との交流と発展 キャリアマネジメント論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 医療安全論※ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅰ
専	教授	川守田　千秋 ＜平成28年４月＞ 修士（都市科学）	専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアマネジメント論 看護学技術論 基礎看護学方法論Ⅱ （ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅰ （生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ （ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ （臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ （看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
		佐藤　和子 ＜平成28年４月＞ 修士（教育学）	スタディスキルセミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアディブロップメント 基礎看護学演習Ⅳ （看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究） 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	和賀　徳子 ＜平成28年４月＞ 修士（学術）	スタディスキルセミナー 問題解決技法 ボランタリーワークセミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアディブロップメント 医療チーム内のマネジメント 医療以外の多職種との交流と発展 キャリアマネジメント論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 医療安全論※ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅰ
専	教授	川守田　千秋 ＜平成28年４月＞ 修士（都市科学）	専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアマネジメント論 看護学技術論 基礎看護学方法論Ⅱ （ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅰ （生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ （ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ （臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ （看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	教授	佐藤　和子 ＜平成28年４月＞ 修士（教育学）	スタディスキルセミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアディブロップメント 基礎看護学演習Ⅳ （看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究） 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	和賀　徳子 ＜平成28年４月＞ 修士（学術）	スタディスキルセミナー 問題解決技法 ボランタリーワークセミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアディブロップメント 医療チーム内のマネジメント 医療以外の多職種との交流と発展 キャリアマネジメント論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 医療安全論※ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅰ.
専	教授	川守田　千秋 ＜平成28年４月＞ 修士（都市科学）	専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアマネジメント論 看護学技術論 基礎看護学方法論Ⅱ （ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅰ （生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ （ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ （臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ （看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	教授	佐藤　和子 ＜平成28年４月＞ 修士（教育学）	スタディスキルセミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアディブロップメント 基礎看護学演習Ⅳ （看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究） 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	和賀　徳子 ＜平成28年４月＞ 修士（学術）	スタディスキルセミナー 問題解決技法 ボランタリーワークセミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアディブロップメント 医療チーム内のマネジメント 医療以外の多職種との交流と発展 キャリアマネジメント論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 医療安全論※ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅰ
専	教授	川守田　千秋 ＜平成28年４月＞ 博士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアマネジメント論 看護学技術論 基礎看護学方法論Ⅱ （ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅰ （生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ （ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ （臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ （看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	教授	佐藤　和子 ＜平成28年４月＞ 修士（教育学）	スタディスキルセミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアディブロップメント 基礎看護学演習Ⅳ （看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究） 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授（学科長）	櫻井　美代子 ＜平成28年４月＞ 社会学修士	スタディスキルセミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアディブロップメント 医療チーム内のマネジメント 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学概論 老年看護学方法論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）
専	准教授	久保川　真由美 ＜平成29年４月＞ 修士（看護学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学概論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	教授	関根　正 ＜平成29年４月＞ 修士（看護科学）	ボランタリーワークセミナー 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学概論 精神看護学演習 精神看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）
専	教授	甲斐　寿美子 ＜平成29年４月＞ 修士（心理学）	医療以外の多職種との交流と発展 小児看護学実習 母性看護学概論 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習Ⅱ 地域母子保健学 看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究） 看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）

【平成２８年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授（学科長）	櫻井　美代子 ＜平成28年４月＞ 社会学修士	スタディスキルセミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアディブロップメント 医療チーム内のマネジメント 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学概論 老年看護学方法論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）
専	准教授	久保川　真由美 ＜平成29年４月＞ 修士（看護学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学概論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	教授	関根　正 ＜平成29年４月＞ 修士（看護科学）	ボランタリーワークセミナー 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学概論 精神看護学演習 精神看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）
専	教授	甲斐　寿美子 ＜平成29年４月＞ 修士（心理学）	医療以外の多職種との交流と発展 小児看護学実習 母性看護学概論 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習Ⅱ 地域母子保健学 看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究） 看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授（学科長）	櫻井　美代子 ＜平成28年４月＞ 社会学修士	スタディスキルセミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアディブロップメント 医療チーム内のマネジメント 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学概論 老年看護学方法論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）
専	准教授	久保川　真由美 ＜平成29年４月＞ 修士（看護学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学概論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	教授	関根　正 ＜平成29年４月＞ 修士（看護科学）	ボランタリーワークセミナー 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学概論 精神看護学演習 精神看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）
専	教授	甲斐　寿美子 ＜平成29年４月＞ 修士（心理学）	医療以外の多職種との交流と発展 小児看護学実習 母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習Ⅱ 地域母子保健学 看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究） 看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授（学科長）	櫻井　美代子 ＜平成28年４月＞ 社会学修士	スタディスキルセミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアディブロップメント 医療チーム内のマネジメント 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学概論 老年看護学方法論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）
専	准教授	久保川　真由美 ＜平成29年４月＞ 修士（看護学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学概論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	教授	関根　正 ＜平成29年４月＞ 修士（看護科学）	ボランタリーワークセミナー 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学概論 精神看護学援助論 精神看護学演習 精神看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）
専	教授	甲斐　寿美子 ＜平成29年４月＞ 修士（心理学）	医療以外の多職種との交流と発展 小児看護学実習 母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習Ⅱ 基礎助産学Ⅰ 基礎助産学Ⅱ 助産診断・技術学方法論 地域母子保健学 看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究） 看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授（学科長）	櫻井　美代子 ＜平成28年４月＞ 社会学修士	スタディスキルセミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント キャリアディブロップメント 医療チーム内のマネジメント 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学概論 老年看護学方法論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）
専	教授	関根　正 ＜平成29年４月＞ 修士（看護科学）	ボランタリーワークセミナー 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学概論 精神看護学援助論 精神看護学演習 精神看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）
専	教授	甲斐　寿美子 ＜平成29年４月＞ 修士（心理学）	医療以外の多職種との交流と発展 小児看護学実習 母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習Ⅱ 基礎助産学Ⅰ 基礎助産学Ⅱ 助産診断・技術学方法論 地域母子保健学 看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究） 看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	渡邊　淳子 ＜平成28年４月＞ 博士（看護学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 助産学概論 基礎助産学Ⅰ 助産診断・技術学概論 助産診断・技術学演習Ⅰ 助産診断・技術学演習Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅲ 助産管理学 助産学実習 看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究） 看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）
専	教授	三輪　のり子 ＜平成28年４月＞ 博士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学概論 基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	教授	石川　みち子 ＜平成29年４月＞ 修士（カウンセリング）	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学方法論 老年看護学演習 医療チーム内のマネジメント 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）
専	教授	加藤　和子 ＜平成29年４月＞ 博士（経済学）	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学演習 小児看護学実習 医療以外の多職種との交流と発展 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）

【平成２８年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	渡邊　淳子 ＜平成28年４月＞ 博士（看護学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 助産学概論 基礎助産学Ⅰ 助産診断・技術学概論 助産診断・技術学演習Ⅰ 助産診断・技術学演習Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅲ 助産管理学 助産学実習 看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究） 看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）
専	教授	三輪　のり子 ＜平成28年４月＞ 博士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学概論 基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	教授	加藤　和子 ＜平成29年４月＞ 博士（経済学）	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学演習 小児看護学実習 医療以外の多職種との交流と発展 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	渡邊　淳子 ＜平成28年４月＞ 博士（看護学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 助産学概論 基礎助産学Ⅰ 助産診断・技術学概論 助産診断・技術学演習Ⅰ 助産診断・技術学演習Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅲ 助産管理学 助産学実習 看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究） 看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）
専	教授	三輪　のり子 ＜平成28年４月＞ 博士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学概論 基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	教授	加藤　和子 ＜平成29年４月＞ 博士（経済学）	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学演習 小児看護学実習 医療以外の多職種との交流と発展 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	渡邊　淳子 ＜平成28年４月＞ 博士（看護学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 助産学概論 基礎助産学Ⅰ 助産診断・技術学概論 助産診断・技術学演習Ⅰ 助産診断・技術学演習Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅲ 助産管理学 助産学実習 看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究） 看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）
専	教授	三輪　のり子 ＜平成28年４月＞ 博士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学概論 基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	教授	加藤　和子 ＜平成29年４月＞ 博士（経済学）	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学演習 小児看護学実習 医療以外の多職種との交流と発展 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	渡邊　淳子 ＜平成28年４月＞ 博士（看護学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 母性看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 助産学概論 基礎助産学Ⅰ 助産診断・技術学概論 助産診断・技術学演習Ⅰ 助産診断・技術学演習Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅲ 助産管理学 助産学実習 看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究） 看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）
専	教授	三輪　のり子 ＜平成28年４月＞ 博士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学概論 基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
兼任	講師	加藤　和子 ＜平成29年４月＞ 博士（経済学）	小児看護学実習

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） <就任（予定）年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	分島　るり子 <平成28年４月> 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 看護学援助論 基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	講師	小林（清水）美智子 <平成29年４月> 修士（教育学）	キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学方法論Ⅰ 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）
専	准教授	今村　嘉子 <平成29年４月> 修士（人間科学）	キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学援助論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）
専	准教授	中込　由美 <平成29年４月> 修士（老年学）	医療以外の多職種との交流と発展 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）

【平成２８年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） <就任（予定）年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	分島　るり子 <平成28年４月> 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 看護学援助論 基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	講師	小林（清水）美智子 <平成29年４月> 修士（教育学）	キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学方法論Ⅰ 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）
専	准教授	今村　嘉子 <平成29年４月> 修士（人間科学）	キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学援助論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） <就任（予定）年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	分島　るり子 <平成28年４月> 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 看護学援助論 基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	講師	小林（清水）美智子 <平成29年４月> 修士（教育学）	キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学方法論Ⅰ 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）
専	准教授	今村　嘉子 <平成29年４月> 修士（人間科学）	キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学援助論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）
専	講師	中村　美幸 <平成29年10月> 修士（看護学）	セルフディブロップメント キャリアマネジメント論 基礎看護学演習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学方法論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探求Ⅳ（老年看護学領域研究）

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） <就任（予定）年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	分島　るり子 <平成28年４月> 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 看護学援助論 基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	講師	小林（清水）美智子 <平成29年４月> 修士（教育学）	キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学方法論Ⅰ 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）
専	准教授	今村　嘉子 <平成29年４月> 修士（人間科学）	キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学援助論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）
専	講師	中村　美幸 <平成29年10月> 修士（看護学）	セルフディブロップメント キャリアマネジメント論 基礎看護学演習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学方法論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探求Ⅳ（老年看護学領域研究）

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） <就任（予定）年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	分島　るり子 <平成28年４月> 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 看護学援助論 基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	講師	小林（清水）美智子 <平成29年４月> 修士（教育学）	キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学方法論Ⅰ 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）
専	准教授	今村　嘉子 <平成29年４月> 修士（人間科学）	キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学援助論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）
専	講師	中村　美幸 <平成29年10月> 修士（看護学）	セルフディブロップメント キャリアマネジメント論 基礎看護学演習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学方法論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探求Ⅳ（老年看護学領域研究）

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	鈴木(原田)久子 ＜平成29年４月＞ 修士（教育学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学方法論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	講師	廣瀬　京子 ＜平成28年４月＞ 修士（教育学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅰ （生活援助技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学演習 小児看護学実習 医療安全論※ 統合実習Ⅰ 看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）
専	講師	穴田　博美 ＜平成29年４月＞ 修士（心身健康科学）	キャリアディブロップメント キャリアマネジメント論 基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）

【平成２８年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	鈴木(原田)久子 ＜平成29年４月＞ 修士（教育学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学方法論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	講師	廣瀬　京子 ＜平成28年４月＞ 修士（教育学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅰ （生活援助技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学演習 小児看護学実習 医療安全論※ 統合実習Ⅰ 看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	鈴木(原田)久子 ＜平成29年４月＞ 修士（教育学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学方法論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	講師	廣瀬　京子 ＜平成28年４月＞ 修士（教育学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅰ （生活援助技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学演習 小児看護学実習 医療安全論※ 統合実習Ⅰ 看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）
専	教授	直成　洋子 ＜平成29年４月＞ 修士（看護学）	キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学方法論Ⅰ 成人看護学方法論Ⅲ 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	鈴木(原田)久子 ＜平成29年４月＞ 修士（教育学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学方法論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	講師	廣瀬　京子 ＜平成28年４月＞ 修士（教育学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅰ （生活援助技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学演習 小児看護学実習 医療安全論※ 統合実習Ⅰ 看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）
専	教授	直成　洋子 ＜平成29年４月＞ 修士（看護学）	キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学方法論Ⅰ 成人看護学方法論Ⅲ 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	鈴木(原田)久子 ＜平成29年４月＞ 修士（教育学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学方法論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	講師	廣瀬　京子 ＜平成28年４月＞ 修士（教育学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅰ （生活援助技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学演習 小児看護学実習 医療安全論※ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）
専	教授	直成　洋子 ＜平成29年４月＞ 修士（看護学）	キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学方法論Ⅰ 成人看護学方法論Ⅲ 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	関川（吉田）久美子 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 在宅看護学方法論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	講師	荻原　康子 ＜平成29年４月＞ 修士（キャリアデザイン学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学演習 小児看護学実習 統合実習Ⅰ

【平成２８年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	関川（吉田）久美子 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 在宅看護学方法論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	講師	田村　三穂 ＜平成28年10月＞ 修士（看護学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学演習 小児看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探求Ⅴ（小児看護学領域研究）

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	原口　真由美 ＜平成29年10月＞ 修士（教育学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学方法論Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	講師	関川（吉田）久美子 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 在宅看護学方法論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	講師	田村　三穂 ＜平成28年10月＞ 修士（看護学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学演習 小児看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探求Ⅴ（小児看護学領域研究）

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	原口　真由美 ＜平成29年10月＞ 修士（教育学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学方法論Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	講師	関川（吉田）久美子 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 在宅看護学方法論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	講師	田村　三穂 ＜平成28年10月＞ 修士（看護学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学演習 小児看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探求Ⅴ（小児看護学領域研究）

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	関川（吉田）久美子 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 在宅看護学概論 在宅看護学方法論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	講師	田村　三穂 ＜平成28年10月＞ 修士（看護学）	医療チーム内のマネジメント 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学演習 小児看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探求Ⅴ（小児看護学領域研究）

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	井上　聡子 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学援助論 精神看護学演習 精神看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）
専	講師	寺岡　歩 ＜平成29年４月＞ 修士（保健学）	医療チーム内のマネジメント 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習Ⅱ 助産学実習 看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）
専	助教	武田　真 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	問題解決技法 ボランタリーワーク セミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 成人看護学演習 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	助教	厚澤　博美 ＜平成29年４月＞ 修士（看護学）	キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）

【平成２８年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	井上　聡子 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学援助論 精神看護学演習 精神看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）
専	講師	寺岡　歩 ＜平成29年４月＞ 修士（保健学）	医療チーム内のマネジメント 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習Ⅱ 助産学実習 看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）
専	助教	武田　真 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	問題解決技法 ボランタリーワーク セミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 成人看護学演習 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	助教	厚澤　博美 ＜平成29年４月＞ 修士（看護学）	キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	井上　聡子 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学援助論 精神看護学演習 精神看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）
専	講師	寺岡　歩 ＜平成30年４月＞ 修士（保健学）	医療チーム内のマネジメント 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習Ⅱ 助産学実習 看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）
専	助教	武田　真 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	問題解決技法 ボランタリーワーク セミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 成人看護学演習 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	井上　聡子 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学援助論 精神看護学演習 精神看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）
専	講師	寺岡　歩 ＜平成30年４月＞ 修士（保健学）	医療チーム内のマネジメント 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習Ⅱ 基礎助産学Ⅰ 基礎助産学Ⅱ 助産診断・技術学方法論 助産学実習 看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）
専	助教	武田　真 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	問題解決技法 ボランタリーワーク セミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学演習 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	井上　聡子 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学援助論 精神看護学演習 精神看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）
専	講師	寺岡　歩 ＜平成30年４月＞ 修士（保健学）	医療チーム内のマネジメント 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習Ⅱ 基礎助産学Ⅰ 基礎助産学Ⅱ 助産診断・技術学方法論 助産学実習 看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）
専	助教	武田　真 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	問題解決技法 ボランタリーワーク セミナー 専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学演習 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	窪島　領子 ＜平成28年４月＞ 修士（教育学）	医療チーム内のマネジメント キャリアマネジメント論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	助教	内田　裕子 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学演習Ⅲ （臨床看護技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 母性看護学方法論Ⅱ 母性看護学演習 母性看護学実習 基礎助産学Ⅱ 助産診断・技術学方法論 地域母子保健学
専	助教	渡邉（菅野）幸恵 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	医療以外の多職種との交流と発展 基礎看護学演習Ⅰ （生活援助技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 母性看護学実習 健康教育技法 助産診断・技術学演習Ⅰ 助産診断・技術学演習Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅲ 助産学実習 看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）

【平成２８年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	窪島　領子 ＜平成28年４月＞ 修士（教育学）	医療チーム内のマネジメント キャリアマネジメント論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	助教	内田　裕子 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学演習Ⅲ （臨床看護技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 母性看護学方法論Ⅱ 母性看護学演習 母性看護学実習 基礎助産学Ⅱ 助産診断・技術学方法論 地域母子保健学
専	助教	渡邉（菅野）幸恵 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	医療以外の多職種との交流と発展 基礎看護学演習Ⅰ （生活援助技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 母性看護学実習 健康教育技法 助産診断・技術学演習Ⅰ 助産診断・技術学演習Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅲ 助産学実習 看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	迫田　典子 ＜平成29年４月＞ 修士（看護学）	スタディスキルセミナー キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学方法論Ⅱ 成人看護学方法論Ⅲ 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）
専	助教	窪島　領子 ＜平成28年４月＞ 修士（教育学）	医療チーム内のマネジメント キャリアマネジメント論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	助教	内田　裕子 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学演習Ⅲ （臨床看護技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 母性看護学方法論Ⅱ 母性看護学演習 母性看護学実習 基礎助産学Ⅱ 助産診断・技術学方法論 地域母子保健学
専	助教	渡邉（菅野）幸恵 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	医療以外の多職種との交流と発展 基礎看護学演習Ⅰ （生活援助技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 母性看護学実習 健康教育技法 助産診断・技術学演習Ⅰ 助産診断・技術学演習Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅲ 助産学実習 看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	迫田　典子 ＜平成29年４月＞ 修士（看護学）	スタディスキルセミナー キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学方法論Ⅱ 成人看護学方法論Ⅲ 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）
専	助教	窪島　領子 ＜平成28年４月＞ 修士（教育学）	医療チーム内のマネジメント キャリアマネジメント論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	助教	内田　裕子 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学演習Ⅲ （臨床看護技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 母性看護学方法論Ⅱ 母性看護学演習 母性看護学実習 基礎助産学Ⅱ 助産診断・技術学方法論 地域母子保健学
専	助教	渡邉（菅野）幸恵 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	医療以外の多職種との交流と発展 基礎看護学演習Ⅰ （生活援助技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 母性看護学実習 健康教育技法 助産診断技術学概論 助産診断・技術学演習Ⅰ 助産診断・技術学演習Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅲ 助産学実習 看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	迫田　典子 ＜平成29年４月＞ 修士（看護学）	スタディスキルセミナー キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学方法論Ⅱ 成人看護学方法論Ⅲ 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）
専	助教	窪島　領子 ＜平成28年４月＞ 修士（教育学）	医療チーム内のマネジメント キャリアマネジメント論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 在宅看護学演習 在宅看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）
専	助教	内田　裕子 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学演習Ⅲ （臨床看護技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 母性看護学方法論Ⅱ 母性看護学演習 母性看護学実習 基礎助産学Ⅱ 助産診断・技術学方法論 地域母子保健学
専	助教	渡邉（菅野）幸恵 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	医療以外の多職種との交流と発展 基礎看護学演習Ⅰ （生活援助技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 母性看護学実習 健康教育技法 助産診断技術学概論 助産診断・技術学演習Ⅰ 助産診断・技術学演習Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅲ 助産学実習 看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	大山　裕子 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	問題解決技法 ボランタリーワーク セミナー 医療以外の多職種との交流と発展 老年看護学方法論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）

【平成２８年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	大山　裕子 ＜平成29年１月＞ 修士（看護学）	問題解決技法 ボランタリーワーク セミナー 医療以外の多職種との交流と発展 老年看護学方法論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	大山　裕子 ＜平成29年１月＞ 修士（看護学）	問題解決技法 ボランタリーワーク セミナー 医療以外の多職種との交流と発展 老年看護学方法論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	南雲　秀子 ＜平成29年10月＞ 修士（保健医療学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学方法論Ⅱ 成人看護学方法論Ⅲ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）
専	助教	詰坂　悦子 ＜平成29年10月＞ 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学方法論Ⅱ （ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学方法論Ⅲ （臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅰ （生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ （ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ （臨床看護技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	坂東　美知代 ＜平成31年4月＞ 修士（健康心理学）	ボランタリーワーク セミナー 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学方法論 老年看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅳ （老年看護学領域）
専	助教	南雲　秀子 ＜平成29年10月＞ 修士（保健医療学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学方法論Ⅱ 成人看護学方法論Ⅲ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）
専	助教	詰坂　悦子 ＜平成29年10月＞ 修士（看護学）	専門職の世界 セルフディブロップメント 基礎看護学方法論Ⅱ （ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学方法論Ⅲ （臨床看護技術） 基礎看護学演習Ⅰ （生活援助技術） 基礎看護学演習Ⅱ （ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ） 基礎看護学演習Ⅲ （臨床看護技術） 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）
専	助教	伏見　友里 ＜平成31年10月＞ 修士（看護学）	セルフディブロップメント 基礎看護学実習Ⅲ 精神看護学演習 精神看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
		専任補充	専門職の世界 セルフディブロップメント スタディスキルセミナー キャリアディブロップメント 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 母性看護学演習 母性看護学実習 助産診断・技術学演習Ⅰ 助産診断・技術学演習Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅲ 地域母子保健学 助産学実習 看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）
兼任	講師	榊原　哲也 ＜平成28年４月＞ 博士（文学）	哲学 科学と技術
兼任	講師	大庭　裕介 ＜平成29年４月＞ 博士（人文科学）	歴史学
兼任	講師	川元　克秀 ＜平成29年４月＞ 博士（情報科学）	倫理学 生命倫理 異文化体験セミナー
兼任	講師	坂西　友秀 ＜平成29年４月＞ 博士（教育心理）	情報と人間
兼任	講師	高柳　良太 ＜平成30年４月＞ 修士（教育学）	情報活用演習 保健統計学

【平成２８年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	榊原　哲也 ＜平成28年４月＞ 博士（文学）	哲学
兼任	講師	田村　未希 ＜平成28年10月＞ 修士（文学）	科学と技術
兼任	講師	大庭　裕介 ＜平成29年４月＞ 博士（人文科学）	歴史学
兼任	講師	川元　克秀 ＜平成29年４月＞ 博士（情報科学）	倫理学 生命倫理 異文化体験セミナー
兼任	講師	坂西　友秀 ＜平成29年４月＞ 博士（教育心理）	情報と人間
兼任	講師	高柳　良太 ＜平成30年４月＞ 修士（教育学）	情報活用演習 保健統計学

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	田村　未希 ＜平成28年10月＞ 修士（文学）	哲学 科学と技術
兼任	講師	大庭　裕介 ＜平成29年４月＞ 博士（人文科学）	歴史学
兼任	講師	川元　克秀 ＜平成29年４月＞ 博士（情報科学）	倫理学 生命倫理 異文化体験セミナー
兼担	准教授	岡島　純子 ＜平成29年４月＞ 博士（医科学）	情報と人間
兼任	講師	高柳　良太 ＜平成30年４月＞ 修士（教育学）	情報活用演習 保健統計学

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	田村　未希 ＜平成28年10月＞ 修士（文学）	哲学 科学と技術
兼任	講師	大庭　裕介 ＜平成29年４月＞ 博士（人文科学）	歴史学
兼任	講師	川元　克秀 ＜平成29年４月＞ 博士（情報科学）	倫理学 生命倫理 異文化体験セミナー
兼担	准教授	岡島　純子 ＜平成29年４月＞ 博士（医科学）	情報と人間
兼任	講師	高柳　良太 ＜平成30年４月＞ 修士（教育学）	情報活用演習 保健統計学

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	田村　未希 ＜平成28年10月＞ 修士（文学）	哲学 科学と技術
兼任	講師	桐谷　多恵子 ＜平成31年4月＞ 国際文化博士	歴史学
兼任	講師	川元　克秀 ＜平成29年４月＞ 博士（情報科学）	倫理学 生命倫理 異文化体験セミナー
兼担	准教授	岡島　純子 ＜平成29年４月＞ 博士（医科学）	情報と人間
兼任	講師	高柳　良太 ＜平成30年４月＞ 修士（教育学）	情報活用演習 保健統計学

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	佐藤　麻衣 ＜平成30年４月＞ 博士（社会学）	家族と社会
兼任	講師	菊地　暁 ＜平成28年４月＞ 博士（文学）	身体論
兼任	講師	横山　美和 ＜平成30年４月＞ 博士（学術）	文学の中の人間
兼任	講師	鈴木　晃仁 ＜平成30年４月＞ 理学博士	生活と経済学
兼任	講師	太田　昌志 ＜平成29年４月＞ 修士（法学）	医療と法 法と人権
兼任	講師	関　由起子 ＜平成29年10月＞ 博士（保健学）	文化と健康
兼任	講師	清水　裕介 ＜平成29年10月＞ 修士（文学）	東京の中の多摩を知るセミナー

【平成２８年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	佐藤　麻衣 ＜平成30年４月＞ 博士（社会学）	家族と社会
兼任	講師	菊地　暁 ＜平成28年４月＞ 博士（文学）	身体論
兼任	講師	横山　美和 ＜平成30年４月＞ 博士（学術）	文学の中の人間
兼任	講師	鈴木　晃仁 ＜平成30年４月＞ 理学博士	生活と経済学
兼任	講師	太田　昌志 ＜平成29年４月＞ 修士（法学）	医療と法 法と人権
兼任	講師	関　由起子 ＜平成29年10月＞ 博士（保健学）	文化と健康
兼任	講師	清水　裕介 ＜平成29年10月＞ 修士（文学）	東京の中の多摩を知るセミナー

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	佐藤　麻衣 ＜平成30年４月＞ 博士（社会学）	家族と社会
兼任	講師	菊地　暁 ＜平成28年４月＞ 博士（文学）	身体論
兼任	講師	横山　美和 ＜平成30年４月＞ 博士（学術）	文学の中の人間
兼任	講師	鈴木　晃仁 ＜平成30年４月＞ 理学博士	生活と経済学
兼任	講師	太田　昌志 ＜平成29年４月＞ 修士（法学）	医療と法 法と人権
兼任	講師	篠原　亘 ＜平成29年４月＞ 博士（法学）	医療と法 法と人権
兼任	講師	関　由起子 ＜平成29年10月＞ 博士（保健学）	文化と健康
兼任	講師	清水　裕介 ＜平成29年10月＞ 修士（文学）	東京の中の多摩を知るセミナー

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	佐藤　麻衣 ＜平成30年４月＞ 博士（社会学）	家族と社会
兼任	講師	菊地　暁 ＜平成28年４月＞ 博士（文学）	身体論
兼任	講師	洲崎　圭子 ＜平成30年４月＞ 博士（人文科学）	文学の中の人間
兼任	講師	佐藤　宏 ＜平成30年４月＞ 博士（経済学）	生活と経済学
兼任	講師	太田　昌志 ＜平成29年４月＞ 修士（法学）	医療と法 法と人権
兼任	講師	篠原　亘 ＜平成29年４月＞ 博士（法学）	医療と法 法と人権
兼任	講師	関　由起子 ＜平成29年10月＞ 博士（保健学）	文化と健康
兼任	講師	清水　裕介 ＜平成29年10月＞ 修士（文学）	東京の中の多摩を知るセミナー

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	佐藤　麻衣 ＜平成30年４月＞ 博士（社会学）	家族と社会
兼任	講師	志村　真幸 ＜平成31年４月＞ 博士（人間・環境学）	身体論
兼任	講師	洲崎　圭子 ＜平成30年４月＞ 博士（人文科学）	文学の中の人間
兼任	講師	佐藤　宏 ＜平成30年４月＞ 博士（経済学）	生活と経済学
兼任	講師	太田　昌志 ＜平成29年４月＞ 修士（法学）	医療と法
兼任	講師	篠原　亘 ＜平成29年４月＞ 博士（法学）	医療と法 法と人権
兼任	講師	関　由起子 ＜平成29年10月＞ 博士（保健学）	文化と健康
兼任	講師	清水　裕介 ＜平成29年10月＞ 修士（文学）	東京の中の多摩を知るセミナー

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	福井　由理子 ＜平成28年４月＞ 理学博士	生物と進化 生命科学
兼任	講師	鈴木　みどり ＜平成28年４月＞	コミュニケーション論
兼任	講師	吉岡　有文 ＜平成28年４月＞ 博士（学術）	物理学
兼任	講師	尾崎　和香子 ＜平成28年10月＞ 修士（Language studies）	日本語表現
兼任	講師	河本アンドレア恵子 ＜平成28年４月＞ 博士（English language）	英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ） 英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ） 英語Ⅲ（医療英語） 英語Ⅳ（日常会話） 英語Ⅴ（英語論文読解）
兼任	講師	室屋　正史 ＜平成31年10月＞ 修士（韓国語学）	韓国語（基礎会話）

【平成２８年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	福井　由理子 ＜平成28年４月＞ 理学博士	生物と進化 生命科学
兼任	講師	鈴木　みどり ＜平成28年４月＞	コミュニケーション論
兼任	講師	杉山　和正 ＜平成28年４月＞	物理学
兼任	講師	尾崎　和香子 ＜平成28年10月＞ 修士（Language studies）	日本語表現
兼任	講師	ウイリアム　ウェザリー ＜平成28年４月＞ 文学士	英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ） 英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ） 英語Ⅲ（医療英語） 英語Ⅳ（日常会話） 英語Ⅴ（英語論文読解）
兼任	講師	室屋　正史 ＜平成31年10月＞ 修士（韓国語学）	韓国語（基礎会話）

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	福井　由理子 ＜平成28年４月＞ 理学博士	生物と進化 生命科学
兼任	講師	鈴木　みどり ＜平成28年４月＞	コミュニケーション論
兼任	講師	杉山　和正 ＜平成28年４月＞	物理学
兼任	講師	宮田　登紀子 ＜平成29年10月＞ 修士（教育学）	日本語表現
兼任	講師	ウイリアム　ウェザリー ＜平成28年４月＞ 文学士	英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ） 英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ） 英語Ⅲ（医療英語） 英語Ⅳ（日常会話） 英語Ⅴ（英語論文読解）
兼任	講師	室屋　正史 ＜平成31年10月＞ 修士（韓国語学）	韓国語（基礎会話）

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	福井　由理子 ＜平成28年４月＞ 理学博士	生物と進化 生命科学
兼任	講師	鈴木　みどり ＜平成28年４月＞	コミュニケーション論
兼任	講師	佐治　眞理 ＜平成30年４月＞ 医学博士	物理学
兼任	講師	宮田　登紀子 ＜平成29年10月＞ 修士（教育学）	日本語表現
兼担	助教	ウイリアム　ウェザリー ＜平成28年４月＞ 文学士	英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ） 英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ） 英語Ⅲ（医療英語） 英語Ⅳ（日常会話） 英語Ⅴ（英語論文読解）
兼任	講師	室屋　正史 ＜平成31年10月＞ 修士（韓国語学）	韓国語（基礎会話）

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	福井　由理子 ＜平成28年４月＞ 理学博士	生物と進化 生命科学
兼任	講師	鈴木　みどり ＜平成28年４月＞	コミュニケーション論
兼任	講師	佐治　眞理 ＜平成30年４月＞ 医学博士	物理学
兼任	講師	宮田　登紀子 ＜平成29年10月＞ 修士（教育学）	日本語表現
兼担	助教	ウイリアム　ウェザリー ＜平成28年４月＞ 文学士	英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ） 英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ） 英語Ⅲ（医療英語） 英語Ⅳ（日常会話） 英語Ⅴ（英語論文読解）
兼任	講師	室屋　正史 ＜平成31年10月＞ 修士（韓国語学）	韓国語（基礎会話）

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	浅田　匡 ＜平成28年４月＞ 学術修士	学習と教育
兼任	講師	本田　智子 ＜平成28年４月＞ 修士（看護学）	形態機能学Ⅰ 形態機能学Ⅱ 形態機能学Ⅲ 形態機能学Ⅳ
兼任	講師	高橋　美由紀 ＜平成28年４月＞ 修士（理学）	生化学（栄養学含）
兼任	講師	田中　秀邦 ＜平成29年10月＞ 博士（歯学）	病理学
兼任	講師	丸山　敬 ＜平成29年４月＞ 博士（医学）	臨床薬理学
兼任	講師	町田　早苗 ＜平成28年10月＞ 博士（医学）	感染免疫学

【平成２８年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	浅田　匡 ＜平成28年４月＞ 学術修士	学習と教育
兼任	講師	阿久津　裕彦 ＜平成28年４月＞ 博士（医学）	形態機能学Ⅰ 形態機能学Ⅲ
兼任	講師	岡田　睦夫 ＜平成28年４月＞ 医学博士	形態機能学Ⅱ 形態機能学Ⅳ
兼任	講師	高橋　美由紀 ＜平成28年４月＞ 修士（理学）	生化学（栄養学含）
兼任	講師	田中　秀邦 ＜平成29年10月＞ 博士（歯学）	病理学
兼任	講師	丸山　敬 ＜平成29年４月＞ 博士（医学）	臨床薬理学
兼任	講師	町田　早苗 ＜平成28年10月＞ 博士（医学）	感染免疫学

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	浅田　匡 ＜平成28年４月＞ 学術修士	学習と教育
兼任	講師	阿久津　裕彦 ＜平成28年４月＞ 博士（医学）	形態機能学Ⅰ 形態機能学Ⅲ
兼任	講師	岡田　陸夫 ＜平成28年４月＞ 医学博士	形態機能学Ⅱ 形態機能学Ⅳ
兼任	講師	高橋　美由紀 ＜平成28年４月＞ 修士（理学）	生化学（栄養学含）
兼任	講師	田中　秀邦 ＜平成29年10月＞ 博士（歯学）	病理学
兼任	講師	丸山　敬 ＜平成29年４月＞ 博士（医学）	臨床薬理学
兼任	講師	淡路　健雄 ＜平成29年４月＞ 医学博士	臨床薬理学
兼任	講師	鈴木　正彦 ＜平成29年４月＞ 医学博士	臨床薬理学

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	浅田　匡 ＜平成28年４月＞ 学術修士	学習と教育
兼担	教授	吉本　正美 ＜平成30年４月＞ 博士（医学）	形態機能学Ⅰ 形態機能学Ⅲ
兼任	講師	岡田　陸夫 ＜平成28年４月＞ 医学博士	形態機能学Ⅱ 形態機能学Ⅳ
兼任	講師	高橋　美由紀 ＜平成28年４月＞ 修士（理学）	生化学（栄養学含）
兼任	講師	田中　秀邦 ＜平成29年10月＞ 博士（歯学）	病理学
兼任	講師	丸山　敬 ＜平成29年４月＞ 博士（医学）	臨床薬理学
兼任	講師	淡路　健雄 ＜平成29年４月＞ 医学博士	臨床薬理学
兼任	講師	鈴木　正彦 ＜平成29年４月＞ 医学博士	臨床薬理学

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	浅田　匡 ＜平成28年４月＞ 学術修士	学習と教育
兼担	教授	吉本　正美 ＜平成30年４月＞ 博士（医学）	形態機能学Ⅰ 形態機能学Ⅲ
兼任	講師	岡田　陸夫 ＜平成28年４月＞ 医学博士	形態機能学Ⅱ 形態機能学Ⅳ
兼任	講師	高橋　美由紀 ＜平成28年４月＞ 博士（理学）	生化学（栄養学含）
兼任	講師	田中　秀邦 ＜平成29年10月＞ 博士（歯学）	病理学
兼任	講師	丸山　敬 ＜平成29年４月＞ 博士（医学）	臨床薬理学
兼任	講師	淡路　健雄 ＜平成29年４月＞ 医学博士	臨床薬理学
兼任	講師	鈴木　正彦 ＜平成29年４月＞ 医学博士	臨床薬理学

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	草間　芳樹 ＜平成29年４月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅰ
兼任	講師	中井　章人 ＜平成29年４月＞ 医学博士（産婦人科学）	診断・治療学Ⅱ

【平成２８年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	草間　芳樹 ＜平成29年４月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅰ
兼任	講師	中井　章人 ＜平成29年４月＞ 医学博士（産婦人科学）	診断・治療学Ⅱ

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	小林　信治 ＜平成29年10月＞ 博士（医学）	感染免疫学
兼任	講師	草間　芳樹 ＜平成29年４月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅰ
兼担	教授	武田　淳史 ＜平成29年４月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅰ
兼任	講師	吉本　賢隆 ＜平成29年４月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅰ
兼任	講師	石川　源 ＜平成29年４月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅱ
兼任	講師	伊藤　文之 ＜平成29年４月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅱ

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	小林　信治 ＜平成29年10月＞ 博士（医学）	感染免疫学
兼任	講師	草間　芳樹 ＜平成29年４月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅰ
兼任	講師	武田　淳史 ＜平成29年４月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅰ
兼担	教授	濱田　良機 ＜平成30年４月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅰ
兼任	講師	石川　源 ＜平成29年４月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅱ
兼任	講師	高瀬　眞人 ＜平成30年４月＞ 博士（医学）	診断・治療学Ⅱ
兼任	講師	松本　多絵 ＜平成30年４月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	小林　信治 ＜平成29年10月＞ 博士（医学）	感染免疫学
兼任	講師	田村　豊 ＜平成31年４月＞ 学士（医学）	診断・治療学Ⅰ
兼担	教授	濱田　良機 ＜平成30年４月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅰ
兼任	講師	石川　源 ＜平成29年４月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅱ
兼任	講師	高瀬　眞人 ＜平成30年４月＞ 博士（医学）	診断・治療学Ⅱ
兼任	講師	松本　多絵 ＜平成30年４月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅱ

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	渡辺　修一郎 ＜平成29年10月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅲ
兼任	講師	紫藤　昌彦 ＜平成29年10月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅲ
兼任	講師	豊田　英子 ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）	臨床心理学
兼任	講師	野寺　誠 ＜平成30年４月＞ 博士（医学）	疫学
兼任	講師	森岡　真梨 ＜平成28年10月＞ 博士（保健学）	生涯発達論
兼任	講師	入江　公康 ＜平成29年10月＞ 修士（人間科学）	社会保障論
兼任	講師	守谷　明子 ＜平成30年４月＞ 修士（経営学）	チーム医療論

【平成２８年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	渡辺　修一郎 ＜平成29年10月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅲ
兼任	講師	紫藤　昌彦 ＜平成29年10月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅲ
兼任	講師	豊田　英子 ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）	臨床心理学
兼任	講師	野寺　誠 ＜平成30年４月＞ 博士（医学）	疫学
兼任	講師	森岡　真梨 ＜平成28年10月＞ 博士（保健学）	生涯発達論
兼任	講師	入江　公康 ＜平成29年10月＞ 修士（人間科学）	社会保障論
兼任	講師	守谷　明子 ＜平成30年４月＞ 修士（経営学）	チーム医療論

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	渡辺　修一郎 ＜平成29年10月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅲ
兼担	教授	上田　諭 ＜平成29年10月＞ 博士（医学）	診断・治療学Ⅲ
兼任	講師	豊田　英子 ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）	臨床心理学
兼任	講師	野寺　誠 ＜平成30年４月＞ 博士（医学）	疫学
兼任	講師	森岡　真梨 ＜平成28年10月＞ 博士（保健学）	生涯発達論
兼任	講師	入江　公康 ＜平成29年10月＞ 修士（人間科学）	社会保障論
兼任	講師	守谷　明子 ＜平成30年４月＞ 修士（経営学）	チーム医療論

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	渡辺　修一郎 ＜平成29年10月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅲ
兼担	教授	上田　諭 ＜平成29年10月＞ 博士（医学）	診断・治療学Ⅲ
兼任	講師	豊田　英子 ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）	臨床心理学
兼任	講師	木戸　尊將 ＜平成30年４月＞ 修士（医科学）	疫学
兼任	講師	山内　貴史 ＜平成30年４月＞ 博士（学術）	疫学
兼任	講師	森岡　真梨 ＜平成28年10月＞ 博士（保健学）	生涯発達論
兼任	講師	入江　公康 ＜平成29年10月＞ 修士（人間科学）	社会保障論
兼任	講師	守谷　明子 ＜平成30年４月＞ 修士（経営学）	チーム医療論
兼任	講師	浦山　絵里 ＜平成30年４月＞	チーム医療論

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	渡辺　修一郎 ＜平成29年10月＞ 医学博士	診断・治療学Ⅲ
兼担	教授	上田　諭 ＜平成29年10月＞ 博士（医学）	診断・治療学Ⅲ
兼任	講師	豊田　英子 ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）	臨床心理学
兼任	講師	木戸　尊將 ＜平成30年４月＞ 博士（医学）	疫学
兼任	講師	山内　貴史 ＜平成30年４月＞ 博士（学術）	疫学
兼任	講師	森岡　真梨 ＜平成28年10月＞ 博士（保健学）	生涯発達論
兼任	講師	入江　公康 ＜平成29年10月＞ 修士（人間科学）	社会保障論
兼任	講師	守谷　明子 ＜平成30年４月＞ 修士（経営学）	チーム医療論
兼任	講師	浦山　絵里 ＜平成30年４月＞	チーム医療論

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	三浦　まゆみ ＜平成31年10月＞ 修士（学術）	災害看護学
兼任	講師	松田　安弘 ＜平成29年４月＞ 博士（看護学）	成人看護学方法論Ⅱ
兼任	講師	山田　巧 ＜平成29年４月＞ 修士（看護学）	成人看護学方法論Ⅱ
兼任	講師	鏑木　陽子 ＜平成31年10月＞ 博士（音楽）	芸術論
兼任	講師	三上　岳彦 ＜平成31年10月＞ 理学博士	環境科学
兼任	講師	福士　公代 ＜平成31年10月＞ 修士（人間科学）	看護倫理学
兼任	講師	網野　寛子 ＜平成30年４月＞ 教育学博士	公衆衛生看護学概論

【平成２８年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	三浦　まゆみ ＜平成31年10月＞ 修士（学術）	災害看護学
兼任	講師	松田　安弘 ＜平成29年４月＞ 博士（看護学）	成人看護学方法論Ⅱ
兼任	講師	山田　巧 ＜平成29年４月＞ 修士（看護学）	成人看護学方法論Ⅱ
兼任	講師	鏑木　陽子 ＜平成31年10月＞ 博士（音楽）	芸術論
兼任	講師	三上　岳彦 ＜平成31年10月＞ 理学博士	環境科学
兼任	講師	福士　公代 ＜平成31年10月＞ 修士（人間科学）	看護倫理学
兼任	講師	網野　寛子 ＜平成30年４月＞ 教育学博士	公衆衛生看護学概論
兼任	講師	安藤　郁子 ＜平成28年４月＞	基礎看護学実習Ⅱ

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	三浦　まゆみ ＜平成31年10月＞ 修士（学術）	災害看護学
兼任	講師	鏑木　陽子 ＜平成31年10月＞ 博士（音楽）	芸術論
兼任	講師	三上　岳彦 ＜平成31年10月＞ 理学博士	環境科学
兼任	講師	福士　公代 ＜平成31年10月＞ 修士（人間科学）	看護倫理学
兼任	講師	網野　寛子 ＜平成30年４月＞ 教育学博士	公衆衛生看護学概論

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	三浦　まゆみ ＜平成31年10月＞ 修士（学術）	災害看護学
兼任	講師	鏑木　陽子 ＜平成31年10月＞ 博士（音楽）	芸術論
兼任	講師	三上　岳彦 ＜平成31年10月＞ 理学博士	環境科学
兼任	講師	福士　公代 ＜平成31年10月＞ 修士（人間科学）	看護倫理学
兼任	講師	網野　寛子 ＜平成30年４月＞ 教育学博士	公衆衛生看護学概論

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	中板　育美 ＜令和元年10月＞ 博士（看護学）	災害看護学
兼任	講師	久保　祐子 ＜令和元年10月＞ 看護学修士	災害看護学
兼任	講師	鏑木　陽子 ＜令和元年10月＞ 博士（音楽）	芸術論
兼任	講師	三上　岳彦 ＜令和元年10月＞ 理学博士	環境科学
兼任	講師	川木　利恵子 ＜平成31年４月＞ 医学博士	看護倫理学
兼任	講師	網野　寛子 ＜平成30年４月＞ 教育学博士	公衆衛生看護学概論

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名

【平成２８年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	林　菓保美 ＜平成29年５月＞	基礎看護学実習Ⅰ

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	島田　千恵子 ＜平成31年４月＞	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ
兼任	講師	髙倉　裕美子 ＜平成31年４月＞ 修士（人間学）	小児看護学実習
兼任	講師	井波　千穂子 ＜平成31年４月＞	母性看護学実習 助産学実習
兼任	講師	大畑　美奈子 ＜平成31年４月＞	助産学実習

（注）・　報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・　認可申請書又は設置届出書の様式第３号（その２の１）に準じて作成してください。
・「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て（兼任，兼担教員を含む。）を黒字で記入してください。
その上で，認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
・　各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
・　年齢は，それぞれの年度の５月１日時点の満年齢を記入してください。
・　専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼担、兼任の順に記入してください。
・　不要な年度（平成２９年度開設であれば平成２８年度）の表は適宜削除し、詰めてください。

（1）ー②担当教員表に関する変更内容

【平成２８年度】

・荻原講師就任辞退により、田村講師に変更予定。平成２８年６月ＡＣ教員提出予定。
・一身上の都合の理由により、大山助教の就任が平成２８年４月から平成２９年１月に遅延。
・榊原兼任講師、一身上の都合の理由により、「科学と技術」の就任辞退。田村兼任講師に変更。
・吉岡兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。杉山兼任講師に変更。
・河本兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。ウェザリー兼任講師に変更。
・本田兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。「形態機能学Ⅰ」「形態機能学Ⅲ」は阿久津兼任講師に、「形態機能学Ⅱ」「形態機能学Ⅳ」は岡田兼任講師に変更。
・荻原講師就任辞退による「基礎看護学実習Ⅱ」の教員補充として、安藤兼任講師が就任。

【平成２９年度】

・教育の充実の為、甲斐教授「母性看護学方法論Ⅰ」科目追加。平成２９年１月ＡＣ教員審査済。
・石川教授、ご逝去の理由により、就任不能。後任未定。
・教育の充実を図る為、加藤教授「小児看護学概論」の科目追加。平成２９年１月ＡＣ教員審査済。
・一身上の都合の理由により、中込准教授就任辞退。後任に中村講師に変更。「基礎看護学実習Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅲ」「老年看護学演習」「老年看護学実習Ⅰ」「老年看護学実習Ⅱ」「統合実習Ⅰ」「統合実習Ⅱ」「看護の探求Ⅳ（老年看護学領域研究）」平成２９年４月ＡＣ教員審査済。さらに教育の充実を図る為、中村講師「キャリアディブロップメント」「老年看護学方法論」科目追加。平成２９年４月ＡＣ教員提出済。
・一身上の都合の理由により、穴田講師就任辞退。後任に「キャリアディブロップメント」「基礎看護学実習Ⅲ」「成人看護学演習」「成人看護学実習Ⅰ」「成人看護学実習Ⅱ」「統合実習Ⅰ」「統合実習Ⅱ」を直成教授に変更。平成２９年１月ＡＣ教員審査済。「キャリアマネジメント論」を中村講師に変更。平成２９年４月ＡＣ教員提出済。「基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開）」「基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）」「基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）」「基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）」「基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）」「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」「看護の探求Ⅱ（基礎看護学領域研究）」を原口講師に変更予定。平成２９年６月ＡＣ教員審査提出予定。
・教育の充実を図る為、直成教授「成人看護学方法論Ⅰ」「成人看護学方法論Ⅳ」「看護の探求Ⅲ（成人看護学領域研究）」科目追加。平成２９年１月ＡＣ教員審査済。
・教員組織の充実を図る為、原口講師「専門職の世界」「セルフディブロップメント」「基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術）」「基礎看護学方法論Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）」「基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術）」「基礎看護学実習Ⅲ」「統合実習Ⅰ」「統合実習Ⅱ」を科目追加予定。平成２９年６月ＡＣ教員審査予定。

・田村講師、荻原講師担当科目の「医療チーム内のマネジメント」「基礎看護学演習Ⅲ」「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅲ」「小児看護学方法論Ⅰ」「小児看護学方法論Ⅱ」「小児看護学演習」「小児看護学実習」「統合実習Ⅰ」平成２８年７月教員審査済。さらに教育の充実を図る為、「小児看護学概論」「統合実習Ⅱ」「看護の探求Ⅴ（小児看護学領域研究）」科目追加。平成２８年７月教員審査済。
・一身上の都合の理由の理由により、寺岡講師の就任が平成２９年４月から、平成３０年４月に遅延。平成２９年４月開講の「母性看護学方法論Ⅰ」については、甲斐教授が担当科目として追加したため教育の質は担保されている。平成２９年１０月開講の「母性看護学演習」については共同科目であり、他の専任教員が複数名担当しているため教育の質は担保されている。
・一身上の都合の理由の理由により、厚澤助教就任辞退。迫田講師に変更。平成２９年１月教員審査済。さらに教育の充実を図る為、「スタディスキルセミナー」「基礎看護学実習Ⅱ」「成人看護学方法論Ⅳ」を科目追加。平成２９年１月教員審査済。
・榊原兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。後任に田村兼任講師に変更。
・坂西兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。後任に岡島兼担准教授に変更。
・教育の充実を図る為、「医療と法」「法と人権」に篠原兼任講師を担当教員追加。
・尾崎兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。後任に宮田兼任講師に変更。

・教育の充実を図る為、「臨床薬理学」に淡路兼任講師、鈴木兼任講師の２名を担当教員追加。
・町田兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。後任に小林兼任講師に変更。
・教育の充実を図る為、「診断・治療学Ⅰ」に武田兼担教授、吉本兼任講師の２名を担当教員追加。
・中井兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。後任に石川兼任講師、伊藤兼任講師に変更。教育の充実を図る為、担当教員を２名に追加。
・紫藤兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。後任に上田兼担教授に変更。
・松田兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。後任に迫田専任講師に変更。平成２９年１月教員審査済。
・山田兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。後任に直成専任教授、迫田専任講師に変更。また、教育の充実を図る為、担当教員２名に追加。共に平成２９年１月ＡＣ教員審査済。
・安藤兼任講師、兼任講師出向期間満了により契約終了。
・石川教授ご逝去の理由により、「基礎看護学実習Ⅰ」の教員補充として林兼任講師が就任。

【平成３０年度】

・教育の充実の為、関根教授「精神看護学概論」科目追加。平成２９年７月ＡＣ教員審査済。
・教育の充実の為、甲斐教授「基礎助産学Ⅰ」「基礎助産学Ⅱ」「助産診断・技術学方法論」科目追加。平成２９年１１月ＡＣ教員審査済。
・原口助教、穴田講師担当科目の「基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）」「基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）」「基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）」「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」「看護の探求Ⅱ（基礎看護学領域研究）」科目追加。平成２９年７月ＡＣ教員審査済。更に教育の充実を図る為、「専門職の世界」「セルフディブロップメント」「基礎看護学方法論Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）」「基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術）」「統合実習Ⅰ」「統合実習Ⅱ」科目追加。平成２９年１１月ＡＣ教員審査済。
・三輪教授、穴田講師担当科目の「基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開）」科目を追加予定。平成３０年６月教員審査予定。
・教育の充実を図る為、寺岡講師「基礎助産学Ⅰ」「基礎助産学Ⅱ」「助産診断・治療学方法論」科目追加。平成２９年１１月ＡＣ教員審査済。
・教育の充実を図る為、武田助教「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅲ」科目追加。平成２９年７月ＡＣ教員審査済。
・教員組織を充実を図る理由で南雲助教就任。「専門職の世界」「セルフディブロップメント」「基礎看護学実習Ⅲ」「成人看護学方法論Ⅱ」「成人看護学方法論Ⅲ」「成人看護学演習」「成人看護学実習Ⅰ」「成人看護学実習Ⅱ」「看護の探求Ⅲ（成人看護学領域研究）」科目追加。平成２９年７月ＡＣ教員審査済。
・教員組織を充実を図る理由で詰坂助教就任。「専門職の世界」「セルフディブロップメント」「基礎看護学方法論Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）」「基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術）」「基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）」「基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）」「基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）」「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅲ」「統合実習Ⅰ」「統合実習Ⅱ」「看護の探求Ⅱ（基礎看護学領域研究）」科目追加。平成２９年７月ＡＣ教員審査済。

・横山兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。後任に洲崎兼任講師に変更。
・鈴木兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。後任に佐藤兼任講師に変更。
・杉山兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。後任に佐治兼任講師に変更。
・ウェザリー兼任講師、本学採用の為、兼担助教に就任。
・阿久津兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。後任に吉本兼担教授に変更。
・武田兼担教授、本学退職の為、兼任講師に変更。
・吉本兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。後任に濱田兼担教授に変更。
・伊藤兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。後任に高瀬兼任講師、松本兼任講師に変更。教育の充実を図る為、「診断・治療学Ⅱ」は３名に追加。
・野寺兼任講師、一身上の都合の理由により、就任辞退。後任に木戸兼任講師、山内兼任講師に変更。教育の充実を図る為、「疫学」は２名に追加。
・教育の充実を図る為、「チーム医療論」に清山兼任講師を追加。
・林兼任講師、兼任講師出向期間満了により契約終了。

【令和元年度】

・久保川准教授、一身上の都合により辞任。担当科目である「医療チーム内のマネジメント」「基礎看護学実習Ⅲ」「老年看護学実習Ⅱ」「在宅看護学演習」「在宅看護学実習」「統合実習Ⅰ」「統合実習Ⅱ）「看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）」については共同科目であり、専任教員が複数担当するため授業に支障はない。「在宅看護学概論」については関川講師が担当科目として追加したため教育の質は担保されている。平成３０年１１月ＡＣ教員審査済。
・教育の充実の為、渡邊教授「母性看護学実習」「統合実習Ⅰ」「統合実習Ⅱ」科目追加。平成３０年７月ＡＣ教員審査済。
・三輪教授、穴田講師担当科目の「基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開）」科目を追加予定。平成３０年７月ＡＣ教員審査済。
・加藤教授、一身上の都合により辞任。後任未定であるが、令和元年１０月から専任教員採用予定で公募中。前期科目である「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅲ」「小児看護学概論」「小児看護学方法論Ⅰ」「医療以外の多職種との交流と発展」「統合実習Ⅰ」「統合実習Ⅱ」「看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）」については共同科目の為、専任教員が複数担当する為授業に支障はない。「小児看護学実習」については加藤教授が退任後、非常勤講師として実習指導予定。
・教育の充実の為、廣瀬講師「小児看護学方法論Ⅱ」「統合実習Ⅱ」科目追加。平成３０年７月ＡＣ教員審査済。
・原口助教、一身上の都合により辞任。後任未定であるが、令和元年１０月から専任教員採用予定で公募中。前期担当科目である「専門職の世界」「セルフディブロップメント」「基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）」「統合実習Ⅰ」「統合実習Ⅱ」「看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）」については共同科目であり、専任教員が複数担当するため授業に支障はない。前期実習科目である「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅲ」については島田兼任講師に変更。
・大山助教、一身上の都合により辞任。（平成30年度教員組織状況及び教員変更内容記載漏れ）担当科目である「問題解決技法」「ボランタリーワークセミナー」「医療以外の多職種との交流と発展」「老年看護学方法論」「老年看護学演習」「老年看護学実習Ⅰ」「老年看護学実習Ⅱ」「看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）」については共同科目であり、専任教員が複数担当するため授業に支障はない。また、後任に平成３１年４月坂東講師就任。「ボランタリーワークセミナー」「老年看護学方法論」「老年看護学演習」「老年看護学実習Ⅰ」「老年看護学実習Ⅱ」「看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）」を大山助教から変更。また坂東講師、前述の辞任された久保川准教授、加藤教授、原口助教の複数担当の共同科目である「基礎看護学実習Ⅲ」「統合実習Ⅰ」「統合実習Ⅱ」は補充として科目追加。全て平成３０年１１月教員審査済。

・令和元年１０月伏見助教就任予定。「セルフディブロップメント」「基礎看護学実習Ⅲ」「精神看護学演習」「精神看護学実習」「統合実習Ⅰ」「統合実習Ⅱ」科目追加。平成３１年１月ＡＣ教員審査済。担当科目の中で、前述の辞任された久保川准教授、加藤教授、原口助教の複数担当の共同科目である「基礎看護学実習Ⅲ」「統合実習Ⅰ」「統合実習Ⅱ」は補充として科目追加。
・大庭兼任講師、一身上の都合の理由により辞退。後任に桐谷兼任講師に変更。
・菊地兼任講師、一身上の都合の理由により辞任。後任に志村兼任講師に変更。
・太田兼任講師、一身上の都合の理由により辞退。篠原兼任講師が担当する為、授業に支障はない。
・草間兼任講師、武田兼任講師、一身上の都合により辞任。後任に田村兼任講師に変更。
・三浦兼任講師、一身上の都合により就任辞退。後任に中板兼任講師、久保兼任講師に変更。教育の充実を図る為、「災害看護学」は２名に追加。
・福士兼任講師、一身上の都合により就任辞退。後任に川本兼任講師に変更。
・原口助教辞任による「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅲ」の教員補充として、島田兼任講師が就任。
・加藤教授辞任による「小児看護学実習」の教員補充として、加藤兼任講師、高倉兼任講師が就任。
・教員補充科目の為、「助産学実習」の教員補充として、井波兼任講師、大畑兼任講師が就任。
・教育の充実の為、「母性看護学実習」の兼任講師として井波兼任講師が就任。
・平成30年度記載のウェザリー兼担助教、教員担当表、表記ミスの為、平成30年度から「講師」から「助教」に修正。
・平成30年度記載の吉本兼担教授、教員担当表、表記ミスのため、平成30年度から「兼任」から「兼担」に修正。

（注）・　変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・　認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
・　「専任教員採用等変更書（ＡＣ）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「○年○月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・　不要な年度（平成２９年度開設であれば平成２８年度）の表は適宜削除してください。

（2） 専任教員数等

（2）－① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
12 名	6 名

（注）・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

（2）－② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計（A）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（B）
9	4	9	6	28	8	2	11	6	27
(5)	(1)	(5)	(5)	(16)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計（C）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（D）
8	2	11	7	28	9	3	10	7	29
[△1]	[△2]	[2]	[1]	[0]	[0]	[△1]	[1]	[1]	[1]

（注）・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の５月１日の教員数（実人数）を記入してください。
・「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、［ ］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）
・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、［ ］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）

（2）－③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
教授65歳 准教授63歳 その他60 歳	6 名	6 名

（注）・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の５月１日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
［ ］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）

（2）－④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{28}{28} = \boxed{100}\ \%$$

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（2）－⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{6}{27} = \boxed{22.22}\ \%$$

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（3） 専任教員辞任等の理由

（3）―① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	講師	荻原　康子	H28.3	必修	医療チーム内のマネジメント	①	一身上の都合によ専任教員（荻原康子講師）が就任辞退。（28）
				必修	基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅲ	①	
				必修	小児看護学方法論Ⅰ	①	
				必修	小児看護学方法論Ⅱ	①	
				必修	小児看護学演習	①	
				必修	小児看護学実習	①	
				必修	統合実習Ⅰ	①	
2	教授	石川みち子	H28.6	必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	ご本人（石川みち子教授）のご逝去により就任不能。（29）
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅲ	①	
				必修	老年看護学方法論	①	
				必修	老年看護学演習	①	
				必修	医療チーム内のマネジメント	①	
				必修	老年看護学実習Ⅰ	①	
				必修	老年看護学実習Ⅱ	①	
				必修	統合実習Ⅰ	①	
				必修	統合実習Ⅱ	①	
				選択	看護の探求Ⅳ（老年看護学領域）	①	
3	准教授	中込由美	H28.6	必修	医療以外の多職種との交流と発展	①	一身上の都合によ専任教員（中込由美准教授）が就任辞退。（29）
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅲ	①	
				必修	老年看護学演習	①	
				必修	老年看護学実習Ⅰ	①	
				必修	老年看護学実習Ⅱ	①	
				必修	統合実習Ⅰ	①	
				必修	統合実習Ⅱ	①	
				選択	看護の探求Ⅳ（老年看護学領域研究）	①	
4	講師	穴田　博美	H28.6	必修	キャリアディブロップメント	①	一身上の都合によ専任教員（穴田博美講師）が就任辞退。（29）
				必修	キャリアマネジメント論	①	
				必修	基礎看護方法論Ⅳ（看護の計画的展開）	①	
				必修	基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	①	
				必修	基礎看護学演習Ⅱ（フィジ゛カルアセスメント）	①	
				必修	基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	①	
				必修	基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅲ	①	
				必修	成人看護学演習	①	
				必修	成人看護学実習Ⅰ	①	
				必修	成人看護学実習Ⅱ	①	
				必修	統合実習Ⅰ	①	
				必修	統合実習Ⅱ	①	
				選択	看護の探求Ⅱ（基礎看護学領域研究）	①	
5	助教	厚澤　博美	H28.6	必修	キャリアディブロップメント	①	一身上の都合によ専任教員（厚澤博美助教）が就任辞退。（29）
				必修	基礎看護学実習Ⅲ	①	
				必修	成人看護学演習	①	
				必修	成人看護学実習Ⅰ	①	
				必修	成人看護学実習Ⅱ	①	
				必修	統合実習Ⅰ	①	
				必修	統合実習Ⅱ	①	
				選択	看護の探求Ⅲ（成人看護領域研究）	①	

合計（D）				後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）	
5 人	必修	51	科目	必修	51	科目	必修	0	科目	必修	0 科目
	選択	4	科目	選択	4	科目	選択	0	科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0 科目
	計	55	科目	計	55	科目	計	0	科目	計	0 科目

（注）・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。
就任した後に辞任した教員は、以下「（３）－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、
「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、
「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（３）－② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
6	助教	大山 裕子	H29.12	必修	問題解決技法	①	一身上の都合により専任教員（大山裕子助教）が辞任。（30）
				選択	ボランタリーワークセミナー	①	
				必修	医療以外の多職種との交流と発展	①	
				必修	老年看護学方法論	①	
				必修	老年看護学演習	①	
				必修	老年看護学実習Ⅰ	①	
				必修	老年看護学実習Ⅱ	①	
				選択	看護の探求Ⅳ（老年看護学領域研究）	①	
7	准教授	久保川 真由美	H30.9	必修	医療チーム内のマネジメント	①	H30.9.30付け 一身上の都合により辞任。（元）
				必修	基礎看護学実習Ⅲ	①	
				必修	老年看護学実習Ⅱ	①	
				必修	在宅看護学概論	①	
				必修	在宅看護学演習	①	
				必修	在宅看護学実習	①	
				必修	統合実習Ⅰ	①	
				必修	統合実習Ⅱ	①	
				選択	看護の探究Ⅶ（在宅看護学領域研究）	①	
8	教授	加藤 和子	H31.3	必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	H31.3.31付け 一身上の都合により辞任。（元）
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅲ	①	
				必修	小児看護学概論	①	
				必修	小児看護学方法論Ⅰ	①	
				必修	小児看護学演習	①	
				必修	小児看護学実習	②	
				必修	医療以外の多職種との交流と発展	①	
				必修	統合実習Ⅰ	①	
				必修	統合実習Ⅱ	①	
				選択	看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）	①	
9	助教	原口 真由美	H31.3	必修	専門職の世界	①	H31.3.31付け 一身上の都合により辞任。（元）
				必修	セルフディプロップメント	①	
				必修	基礎看護学方法論Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	①	
				必修	基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術）	①	
				必修	基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	①	
				必修	基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	①	
				必修	基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅲ	①	
				必修	統合実習Ⅰ	①	
				必修	統合実習Ⅱ	①	
				選択	看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）	①	

合計（F）				後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）	
4 人	必修	36	科目	必修	35	科目	必修	1	科目	必修	0 科目
	選択	5	科目	選択	5	科目	選択	0	科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0 科目
	計	41	科目	計	40	科目	計	1	科目	計	0 科目

（注）・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について**に記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（3）－③ 上記（3）－① ・ （3）－② の合計

合計（D）＋（F）				後任補充状況の集計（E）＋（G）							
辞任等した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）	
9 人	必修	87	科目	必修	86	科目	必修	1	科目	必修	0 科目
	選択	9	科目	選択	9	科目	選択	0	科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0 科目
	計	96	科目	計	95	科目	計	1	科目	計	0 科目

（3）－④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{9}{28} = \boxed{32.14}\ \%$$

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（３）－⑤　定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
	該当なし					

合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0　人	必修	0	科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0	科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0	科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

（注）・　**定年により退職した全ての専任教員について**に記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（４）　専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

1、当該教員の担当科目10科目うち7科目の開講時期は平成29年4月、10月、平成30年4月、及び平成31年10月と授業開講前であったため、学生にはシラバスの配布をもって新任の専任教員に変更する旨を周知する予定である。平成28年4月開講の基礎看護学実習Ⅰは共同授業の科目であり、他の専任教員が科目担当することができるため学生の学修への影響は無いと判断している。平成28年4月開講の基礎看護学実習Ⅱについては、兼任講師を就任させるため、学生の学修への影響は無いと判断している。平成28年度4月開講科目の学生への周知は、シラバスの修正版を学生に配布することで周知する予定である。（28）

２、当該石川教授の平成２９年度担当科目のうち基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ及び基礎看護学実習Ⅲは共同科目であり主担当ではないため他の専任教員を配置。老年看護学方法論及び老年看護学演習については、後期開講であり、既に就任している教授及び助教、平成２９年１０月就任予定の後任の講師が担当するため学生の学修への影響はないものと考える。また、平成２９年度のシラバス等においても既に名前の記載がないため学生の混乱はない。（29）

３、当該中込准教授の平成２９年度担当科目のうち基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ及び基礎看護学実習Ⅲは共同科目であり主担当ではないため他の専任教員を配置。老年看護学演習については後期開講であり、既に就任している教授及び助教、平成２９年１０月就任予定の後任の講師が担当するため学生の学修への影響はないものと考える。また、平成２９年度のシラバス等においても既に名前の記載がないため学生の混乱はない。（29）

４、当該穴田講師の担当科目のうち平成２９年度に開講する１０科目のうち９科目は共同科目であり主担当ではないため、他の専任教員を配置。基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開）については、後期開講であり、既に就任している助教及び平成２９年１０月就任予定の後任の講師が担当するため学生の学修への影響はないものと考える。また、平成２９年度のシラバス等においても既に名前の記載がないため学生の混乱はない。（29）

５、当該厚澤助教の平成２９年度担当科目のうちキャリアディプロップメント及び基礎看護学実習Ⅲについては共同科目であり主担当ではないため、他の専任教員を配置。成人看護学演習については後期開講であり、既に就任している教授及び講師、平成２９年４月より新たに採用した教授及び後任の講師が担当するため学生の学修への影響はないと考える。また、平成２９年度のシラバス等においても既に名前の記載がないため学生の混乱はない。（29）

６、当該大山助教の平成３０年度担当科目のうち問題解決技法、ボランタリーワークセミナー、老年看護学方法論、老年看護学演習、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱついては共同科目であり主担当ではないため、他の専任教員が担当するため学生の学修への影響はないと考える。また、平成３０年度のシラバス等においても既に名前の記載がないため学生の混乱はない。尚、後任の専任教員を平成３０年１０月採用予定としている。（30）

７、当該久保川准教授の令和元年度担当科目のうち医療チーム内のマネジメント、基礎看護学実習Ⅲ、老年看護学実習Ⅱ、在宅看護学演習、、在宅看護学実習、統合実習Ⅰ、統合実習Ⅱ、看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）については共同科目であるため、他の専任教員が担当するため学生の学修への影響はないと考える。また単独科目であった在宅看護学概論については関川講師（平成３０年１１月ＡＣ教員審査済）が担当するため学生の学修への影響はないと考える。令和元年度のシラバス等においても既に名前の記載がないため学生の混乱はない。（元）

８、当該加藤教授の令和元年度の担当科目（小児看護学実習除く）については共同科目であるため、他の専任教員が担当するため学生の学修への影響はないと考える。小児看護学実習については実習指導の非常勤講師を１名追加するとともに、当該加藤教授も非常勤講師となり実習指導予定の為、学生の学修への影響はないものと考える。令和元年度のシラバス等においても既に名前の記載がないため学生の混乱はない。尚、後任の専任教員を令和元年１０月採用を目標に公募している。（元）

９、当該原口助教の令和元年度の担当科目（基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、基礎看護学実習Ⅲを除く）については他の専任教員が担当するため学生の学修への影響はないと考える。基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、基礎看護学実習Ⅲについては実習指導の非常勤講師を追加するため、学生の学修への影響はないものと考える。令和元年度のシラバス等においても既に名前の記載がないため学生の混乱はない。なお、基礎看護学実習Ⅲ、統合実習Ⅰ、統合実習Ⅱについては令和元年１０月に伏見助教が就任し担当予定である。（元）

（注）・　上記（３）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

６　附帯事項等に対する履行状況等

区　　分	附　帯　事　項　等		履　行　状　況		今後の 実施計画
設　置　時 （平成27年12月）	・臨地実習を行うにあたっては、継続的に教育を行い得る観点からの教員配置に関する方針を定めた上で、採用することとしている専任教員を臨地実習の開始までに確実に配置すること。	留意事項	・臨地実習を行うにあたっては、各専門分野の専任教員が責任を持って実習指導を行えるよう、年度ごとの実習計画を策定し、実習が始まるまでに実習計画に沿った担当予定教員が就任するよう計画している。 残念ながら、平成２８年４月より開講の基礎看護学実習Ⅰ及び基礎看護学実習Ⅱを担当する予定であった専任教員１名が急な自己都合により就任を辞退したため、後任の専任講師を配置する。直近の平成２８年６月に教員審査を受け、１０月に採用する予定となっている。 学科開設当初の１年目、２年目は、開講される講義科目及び実習の科目数が少なく専任教員の担当科目に余裕があるため、今年度の基礎看護学実習Ⅰは当初より計画している他の１３名の専任教員が担当することで巡回指導を含む授業実施に支障はない。基礎看護学実習Ⅱについては、今年度のみ兼任講師を１名配置する。(28) 平成２８年度に開講した基礎看護学実習Ⅰ及び基礎看護学実習Ⅱについては、前年度の計画通りに実施している。平成２９年度は学年進行により基礎看護学実習Ⅰ及び基礎看護学実習Ⅱに加えて基礎看護学実習Ⅲが開講するが、現在就任している専任教員２５名から各実習施設の担当経験及び領域実習との関連に鑑み適切に配置している。平成２９年４月に精神看護学、小児看護学、母性看護学の教授と在宅看護学の准教授が就任しており、各領域分野の実習指導の体制が整備された。また、設置計画当初に助手３名採用を計画していたが、平成３０年度に向けて各領域実習の教育の質の向上と継続性を考慮し専任教員４名として採用する方針で検討を行っている。 (29)	未履行	・左記のとおり定めた教員配置に関する方針を確実に履行していくため、専任教員に関する管理を徹底する。(28)

区　　分	附　帯　事　項　等		履　行　状　況		今後の 実施計画
設　置　時 （平成27年12月）		留意事項	・平成２９年度の後期に専任教員４名が就任しており、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱさらに各領域の教育の質の向上と継続が保証されている。 ・学年の進度に伴い平成２９年度に開講した基礎看護学実習Ⅲは、学生個々の能力に応じた丁寧な指導を行うために、基礎看護学の専任教員６名に加えて、全領域から看護基礎技術及び看護過程の展開方法を指導できる専任教員１１名を配置している。 ・平成３０年１月に助産看護学領域の准教授候補者を教員審査にかけたが講師相当であったため採用には至っていない。（30） ・基礎看護学実習Ⅲは、学生が初めて患者を受け持ち看護を実践する実習であるため、平成30年度は基礎看護学の専任教員６名に加えて各専門領域から看護基礎技術及び看護過程の展開方法を指導できる１０名の専任教員を配置している。 ・精神看護学実習では、専任助教（平成30年度AC教員審査済）が令和元年10月に着任予定である。また、臨床指導者と教員が指導方法を分担することで実習教育の質を維持することができている。（元）	未履行	平成３０年度後期から開始する各領域別実習に向けて、現在専任教員が２名の精神看護学領域は、実習教育の質の向上を維持するために、後期から専任教員（助教）１名を採用する予定である。また、助産看護学領域（准教授）１名を現在公募中である。（30） ・助産学領域には（教授もしくは准教授）1名を公募継続中である。（元）

区　　分	附　帯　事　項　等		履　行　状　況		今後の 実施計画
設　置　時 （平成27年12月）	・臨地実習等のために採用することとしている３名の助手に対して、「FDプログラム」による教育を実施することとしているが、その内容が大学教育の質を確保する十分なものとなるよう努めるとともに、万全の体制を構築して実施すること。関連して、助手に対し担当する領域の学会への参加を義務付けるとしているが、将来助教となる助手の主体的な研究活動に配慮する上では、学会へ参加する機会を提供する程度の支援が望ましいので留意すること。	留意事項	・平成２９年４月着任を目処に採用予定の３名の助手については、平成２８年４月現在、候補者を選考中である。 「関連する領域の学会参加を義務づける」という点については、助手の主体的な研究活動ができるように支援する内容に改める。(28) ・今後臨地実習の教育の充実と質の向上に鑑み、専任助手３名の代わりに専任教員４名を採用する方針で検討を行っている。 専任教員に対するＦＤ研修会に専任教員採用予定者も参加することとする。平成２８年度は６月、８月、２月の３回実施し、２月のＦＤ研修会には平成２９年４月に就任の教員も参加した。（29） ・平成２９年度には、臨地実習指導の充実と教育の質向上を鑑み、専任教員（講師１名、助教３名）を採用している。したがって、開設当初の助手を対象とした「ＦＤプログラム」は、専任教員の教育力向上に向けた内容を検討し実施している。 ・平成２９年度は、ＦＤ委員が７月に日本看護系大学協議会主催の「実習指導にあたる教員のためのＦＤ企画ワークショップ」に参加し、その内容を含めて１２月に専任教員全員を対象にワークショップを実施ている。平成３０年度は後期から始まる領域実習の実習施設の教育担当者と教員の合同ＦＤ研修を予定している。（30）	履行済	・助手に対するFDプログラムについて、平成２８年５月現在は、候補者を選考中のため未実施であるが、看護学科に設置するFDプロジェクト委員会において、設置時の計画に基づき実施計画を検討する。（28）

区　　分	附　帯　事　項　等		履　行　状　況		今後の 実施計画
設置時 （平成27年12月）	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。	留意事項	・教育研究の継続性、看護教育の分野の専門性及び教員組織の活性化に留意し、完成年度以降に段階的な高年齢の教員の割合の是正を図る。 また、年齢構成バランス等の教員組織編制の将来構想を学内で検討し、若手教員の採用・育成および中堅職員の採用を行う。(28) 就任辞退の後任補充および新規採用の教員を採用するにあたり、定年規程の趣旨を踏まえ選考している。 平成２８年１０月に５０歳代の講師１名、平成２９年４月に５０歳代の教授１名および４０歳代の講師１名を採用している。 平成２９年１０月に５０歳代の講師２名を採用予定である。（29）	履行済	
設置計画履行状況 調査時 （平成29年2月）	・保健医療学部看護学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想を策定し、着実に実行すること。	改善意見	・就任前に辞退した専任教員の後任を採用する際、教育研究の継続性を考慮したうえで比較的年齢の低い中堅層の教員を平成２９年４月に２名採用している。 平成２９年１０月には５０歳代の教員を２名採用予定であり、教員組織の活性化に留意している。 また完成年度後は段階的に高年齢教員の割合の是正を図り、年齢構成バランスのとれた教員組織を編成していく。（29）	履行済	
	・保健医療学部リハビリテーション学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想を策定し、着実に実行すること。	改善意見	・教育研究の継続性と継承及び発展に支障が生じないようにするとともに、高齢者の教員の割合の是正を図るために、若手教員の育成や中堅教員の採用を行う。 平成２８年度の年度末に定年を超えた専任教員が３名退職した。 定年規程の趣旨をふまえ、平成２８年１０月に５１歳の教授、平成２９年４月に６０歳の教授および３０歳代を中心とした３名の助教を新たに採用している。 リハビリテーション学科の専任教員３０名となり、定年を超えて採用している専任教員は５名となった。 （29）	履行済	

区　　分	附　帯　事　項　等		履　行　状　況		今後の 実施計画
設置計画履行状況 調査時 （平成30年2月）	・保健医療学部看護学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想を策定し、着実に実行すること。	改善意見	・就任辞退の後任補充および新規採用の教員を採用するにあたり、定年規程の趣旨を踏まえ選考している。当初設置計画から就任を辞退した専任教員５名及び退職した教員１名の補充若しくは教育内容の充実のために採用した教員７名については、教育研究の継続性に鑑み、平成３１年度の完成年度を超えても定年を迎えない年齢で採用している。（30） ・退職した教員の後任補充および新規採用にあたり、定年規程の趣旨を踏まえて選考している。定年を超えている専任教員のうち1名が退職したため、講師もしくは助教で公募中である。（元）	未履行	現在定年を超えて採用している専任教員８名が担当する領域についての職位バランスの継続性にも配慮しつつ採用計画を整理する予定である（30） ・現在定年を超えて採用している専任教員６名が担当する領域についての職位バランスの継続性にも配慮しつつ採用計画を整理する予定である（元）

区　　分	附　帯　事　項　等		履　行　状　況		今後の実施計画
設置計画履行状況 調査時 （平成31年3月）	・専任教員数が認可時の計画から減少している専攻分野がある。このため，学外実習において専門分野以外の教員が学生指導の補助を行うほか，学期の途中で授業の開講日時が突然変更されるなど，教育課程が適切に運営されていないため，専任教員の補充や実習補助者の導入を行うなど，教育課程の実施に必要な体制を確保すること。	指摘事項 （是正）	認可時の専任教員数は28人であり、今年度の専任教員数は28人（今年10月の着任予定者1人含む）になり、認可時の専任教員数を充足する。しかし、設置計画履行状況等調査の実地調査（平成30年9月6日実施）の際には、全体の教員数は基準に合致しているが、特に精神領域および老年領域における教員配置等を見直すことについてご意見を受けたことを踏まえ、教育効果を低めることなく、実習施設と連携をとって学生・教員の配置を工夫する。老年領域では、実地調査後の平成30年10月に専任教員（講師）1名が新規に着任し、さらに平成31年4月に専任教員（講師）1名が新規に着任することができている。精神領域では、令和元年10月に専任教員（助教）1名が新規に着任できることになった。 （平成30年度AC教員審査済み） また、第2学年生の演習科目のうち、複数の教員による指導が必要な内容の授業は、第3学年生の帰校日に合わせて授業の開催日時を変更している。変更日時については、急な授業変更等が生じることがないように、学期の始めに学生に資料を配布するとともに学生掲示板に掲示し、さらに開講時にオリエンテーションを行うことで、予め学生に周知して注意を促している。 臨地実習の一部は非常勤講師での対応となるが、研修を十分に行う体制でしっかりフォローしていく。 （元）	履行済	

（注）・　「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）　と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

・　「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。

・　「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください

・　該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。

・　「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7　その他全般的事項

＜保健医療学部　看護学科＞

（1） 設置計画変更事項等

<table>
<tr><th>設　置　時　の　計　画</th><th>変更内容・状況，今後の見通しなど</th></tr>
<tr><td>・領域別看護学実習に着手するためには、基礎看護学実習Ⅲの単位を修得していなければならない。</td><td>・平成30年4月以降の入学者の令和2年前期以降の領域別看護学実習に着手するためには、基礎看護額実習Ⅲ及び下表必修科目の単位を修得することに変更する。
<table>
<tr><th>成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ</th><th>老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ</th><th>小児看護学実習</th><th>母性看護学実習</th><th>精神看護学実習</th><th>在宅看護学実習</th></tr>
<tr><td>成人看護学方法論Ⅰ</td><td>老年看護学援助論</td><td>小児看護学概論</td><td>母性看護学概論</td><td>精神看護学概論</td><td>在宅看護学概論</td></tr>
<tr><td>成人看護学方法論Ⅱ</td><td>老年看護学演習</td><td>小児看護学方法論Ⅰ</td><td>母性看護学方法論Ⅰ</td><td>精神看護学援助論</td><td>在宅看護学方法論</td></tr>
<tr><td>成人看護学方法論Ⅲ</td><td></td><td>小児看護学方法論Ⅱ</td><td>母性看護学方法論Ⅱ</td><td>精神看護学演習</td><td></td></tr>
<tr><td>成人看護学方方法論Ⅳ</td><td></td><td>小児看護学演習</td><td>母性看護学演習</td><td></td><td></td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>・必要な基礎学力を判定するための学力試験を行い、その結果を評価して判定する。学力試験の教科は、外国語「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」（リスニングを除く）は必須、国語「国語総合（古文・漢文を除く）・現代文Ｂ」、数学「数学Ⅰ・数学Ａ」、理科（「化学基礎」、「生物基礎」から1科目）のうちから2教科2 科目を選択する。</td><td>・入学者選抜の一般入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期の2回実施）において、1回目の一般入学試験Ⅰ期は計画と同じ内容で実施している。2回目に実施する一般入学試験Ⅱ期では、選抜方法を「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ（リスニングを除く）」と面接とした。</td></tr>
</table>

（注）・　１～６の項目に記入した事項以外で，設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（2） 教員の資質の維持向上の方策（ＦＤ・ＳＤ活動含む）

報告年度（平成２８年度）

①　実施体制

ａ　委員会の設置状況

・本学は平成２４年４月９日の教授会において、FD委員会の設置を決議し、平成２４年５月３０日に第１回目の委員会を開催している。尚、当該委員会については、平成２７年４月にFD・SD委員会と改組している。

FD・SD委員会運営細則で定めている審議事項は以下のとおりである。

（１）教育内容及び方法等の改善のための企画及び実施に関する事項

（２）教育にかかる教育支援に関する事項

（３）多様な授業方法の実施、分析及び結果に基づく授業改善に関する事項

（４）事務職員の資質向上のための企画及び実施に関する事項

（５）FD・SD活動に係る情報収集や調査・研究に関する事項

（６）その他前各項に関連する事項及び委員長が必要と認める事項

平成２８年４月看護学科開設に伴い、２名の看護学科専任教員を委員に加えている。又、看護学科においては助手に対するFD計画の立案及び運営並びに学位取得支援等の学科独自のFD計画の策定のためのFDプロジェクト委員会の設置を予定している。

ｂ　委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

・平成２８年度は、５月９日の開催を予定している。尚、平成２７年度の実績は以下のとおりである。

第１回　平成２７年６月８日　出席６名（教員６名）　欠席１名（事務１名）

c　委員会の審議事項等

・平成２８年度は、５月９日の開催を予定している。尚、平成２７年度の実績は以下のとおりである。

審議事項

（１）平成２７年度FD活動の実施について

・学生授業アンケートの作業担当者の選出及び実施内容

・教員による相互講義参観の作業担当者及び実施内容

・平成２７年度SD活動の実施について

・自己点検評価書の作成

② 実施状況

a　実施内容

・開学前の看護学科専任教員就任予定者説明会

○第１回　(2016/1/16)

本学の看護学科設置計画を履行していくうえで、新任の専任教員に看護学科設置認可申請書をもととして設置の趣旨及び目的等の説明を行い理解の共有を深めた。又、シラバス及び学年歴の説明と意見交換会を行った。

○第２回　(2016/3/14)

授業開始に向けての教務関係等に関する説明を教員ハンドブック及びキャンパスガイドを基に行った。又、学生指導についての意見交換会を行った。

・開学後の説明会（2016/4/4）

○事務局によるオリエンテーション

本学の諸規程及び運用マニュアル等の教育研究活動を行っていくうえで必要な諸手続及び学修支援ネットワークシステム等の説明、並びに事務局各課の業務内容の説明を行った。

b　実施方法

・開学前の看護学科専任教員就任予定者説明会

現在、採用が確定している専任教員を対象し、看護学科設置準備室長を議長として実施した。尚、当説明会には理事長及び学長が出席している。

・開学後の説明会

入学式終了後、平成２８年度採用専任教員全員に対して、事務局各課の課長職職員からの説明及び質疑応答を行った。

c　開催状況（教員の参加状況含む）

・開学前の全体会議

○第１回　：　２３名参加（うち、教員１８名）

○第２回　：　２３名参加（うち、教員１７名）

・開学後の説明会

○事務局によるオリエンテーション　１４名参加（内、教員１４名）

d　実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

平成２８年４月４日に入学式を挙行し、学生ガンダンス、履修登録及び前期講義を支障なく開始している。改善への日々の取り組みの一環として、平成２８年４月８日に第１回看護学科会議を開催し、各種委員会への委員の選出及び国家試験対策に向けた活動計画を立案決定した。

今後、全学的に行っているFD・SD委員会及びFD計画に看護学科も参加していく予定である。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a　実施の有無及び実施時期

実施の時期及び方法について、平成２７年度の実施内容に準じて、FD・SD委員会にて策定する。

尚、リハビリテーション学科については以下のとおり実施している。

・前期は、平成２７年７月６日～１３日の期間に１３授業を対象に実施した。

・後期は、平成２８年１月１６日～２３日の期間に４２授業を対象に実施した。

b　教員や学生への公開状況，方法等

開示方法について、平成２７年度の実施内容に準じて、FD・SD委員会にて策定する。

尚、リハビリテーション学科については以下のとおり実施している。

・専任教員及び非常勤講師　：　前期の個別結果報告の送付している。

・学生　：　前期実施分を授業科目ごとに平均データ及びFD委員会分析により設定した群間比較データを学内掲示板に掲示した。後期実施分については現在集計中である。

報告年度（平成２９年度）

①実施体制

a.委員会の設置状況

・看護学科では大学のFD・SD委員会に教員2名が委員として加わる一方で、看護学科独自にFD・SDプロジェクト委員会を設置し、「看護実践能力向上に向けた学修支援」に関するFD研修会を企画している。

b.委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

・委員会は年6回（5/29.10/25.12/22.12/27.1/26.3/8）開催し、毎回委員である教員全員（5名）が参加した。

c.委員会の審議事項

・平成28年度の看護学科独自のFD研修会の企画検討

・FD研修会の振り返り

・学生の授業評価アンケート実施方法について（基礎看護学5科目）

・平成28年度の委員会活動自己点検評価について

②実施状況

a.FD研修会の実施内容及び実施方法

第1回研修会（平成28年6月29日）

「大学の使命と看護学教育に期待すること」というテーマで、看護学科に着任した看護教員と学長とのフリーディスカッション形式で実施した。主な内容は、大学教員としての教育研究活動の重要性と教育環境に関する事柄であった。参加者からは、学長と直接意見交換ができたことによる手応えと本学の看護学教育に対する期待が明確となり、大変有意義だったとの意見が聞かれた。

第2回研修会（平成28年8月1日）

着任した教員の約半数が研究助成金の申請書を作成した経験がなかったことから10月の提出を控えて「初心者向け科研費申請書の書き方のコツ」をテーマに講演会形式で実施した。主な内容は、①採択未経験者の特徴　②審査の要点　③申請に向けた戦略であり、講演の後の質疑応答では予算の書き方など具体的な質問が多かった。

第3回研修会（平成29年2月15日）

「教育理念と看護学科カリキュラムの特色」をテーマに、二人の講師から「大学における看護学教育のモデル・コアカリキュラム」「看護の専門職性の発展の基盤」についての講演と、３グループ編成によるワークショップを実施した。完成年度に向けて本学の看護学教育をどのように展開していくのかについて活発な意見交換が行われ、参加した教員間でのコンセンサスが得られた。

b.開催状況（教員の参加状況含む）

第１回　：学長が講演　　（看護学科教員14名参加）

第２回　：看護学科助産学教授が講演　　（看護学科教員12名参加）

第３回　：看護学科教授と講師が講演

（看護学科教員13名、4月着任予定看護学科教員4名、リハビリ学科教員2名、事務職員７名　計26名）

c.実施結果を踏まえた授業改善への取り組み状況

・第3回FD研修会のワークショップで「本学の教育理念を”看護の専門職性の発展の基盤”科目にどのように反映させていくか」あるいは「学生の主体的学習態度を育てるために授業にどのような工夫を取り入れているか」など授業改善に向けた意見交換が行われた。

③学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a.実施の有無及び実施時期

・大学のＦＤ・ＳＤ委員会の計画に沿って看護学科でも前期は1科目、後期は5科目実施している

・前期；7月31日　　後期；1月24日，1月30日，1月31日，2月1日，2月2日

b.教員や学生への公開状況、方法等

・学生の授業評価アンケート結果は、対象となった各科目の教員に送付され、授業改善に向けた参考資料として活用している。また学生に向けては、アンケート全体に対するコメントを掲示している。

報告年度（平成３０年度）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

看護学科では大学のFD・SD委員会に教員３名が委員として加わる一方で、看護学科独自にFD・SDプロジェクト委員会を設置し、「看護実践能力向上に向けた学修支援」に関するFD研修会を企画している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

委員会は年１１回開催し、毎回委員である教員全員（５名）が参加した。

c 委員会の審議事項等

・平成２９年度の看護学科FD・SDプロジェクト委員会の活動及び研修会の企画検討

・学生の授業評価アンケート実施方法について（前期と後期の開講科目のうち実施科目の選定）

・看護学科独自のＦＤ研修ワークショップの検討と実施後の振り返りについて

・平成３０年度のＦＤ研修の企画案について

② 実施状況

ab 実施内容及び実施方法

・看護系大学協議会主催の「看護教育質向上委員会研修」への参加（平成２９年７月２日）

「実習指導に当たる教員のためのＦＤ企画ワークショップ：多様化する実習に対応するために」というテーマで開催された研修会に看護学科のＦＤ委員のうち２名が参加した。その後、看護学科ＦＤプロジェクト員会で内容について報告し、それを受けて看護学科ＦＤ研修会の企画を検討していった。

・ＦＤ研修ワークショップ（平成２９年１２月２日）

「本学の臨地実習のあり方を考える」というテーマで看護学科全教員を対象に実施した。

前半は、看護学科ＦＤプロジェクト委員長による「臨地実習の考え方・あり方」について講演を行い、後半は職位や専門領域が重ならない５グループに分けて、本学の臨地実習の考え方や指導の在り方などについて自由に話し合うことで、看護学科教員間の共通理解を深めることを目的とした。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

１２月の土曜日であったにもかかわらず、２７名（93.1%）が参加し、ワークショップでは各教員が経験をもとに臨地実習のあり方について大変活発な意見交換が行われた。研修会の最後にはグループ毎の発表を行うとともにワークの内容を記録にまとめ教員間で共有した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

講演の中で、平成２３年３月に報告された「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」の内容と「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」（案）について紹介されたことで、後半のワークショップでは本学のカリキュラムポリシーに焦点をあてて教育方法についてディスカッションを行ったグループも多かった。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

・大学のＦＤ・ＳＤ委員会の計画に沿って看護学科でも前期は７科目、後期は６科目実施している

b 教員や学生への公開状況，方法等

・学生の授業評価アンケート結果は、対象となった各科目の教員に送付され、授業改善に向けた参考資料として活用している。また学生に向けては、アンケート全体に対するコメントを掲示している。

報告年度（令和元年度）
①実施体制
a. 委員会の設置状況
看護学科では大学のFD・SD委員会に教員３名が委員として加わる一方で、看護学科独自にFD・SDプロジェクト委員会を設置し、「看護実践能力向上に向けた学修支援」に関するFD研修会を実施している。
b. 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）
・委員会は年8回開催し、6人の委員全員が毎回参加した。
c. 委員会の審議事項
・後期から始まる領域別実習を前に各実習施設の指導者を対象にしたFD/SD研修会についての企画検討
・学生の授業アンケート実施方法について
・教員のオフィスアワーの確認
②実施状況
a. 研修会の実施内容・・・8月30日（木）15：00～17：00　W104講義室
13：00～15：00に実習委員会主催の「実習連絡会」を行い、その後引き続いてFD研修会を開催した。
「学生の主体性を育む臨地実習の在り方」というテーマで、FD委員長が学士教育に求められる「主体性」とは…についての基調講演を行い、後半は参加者が4グループに分かれて実習開始に向けてフリーディスカッションを実施した.
b. 開催状況
参加者は、外部施設の実習指導者46人と看護学科専任教員28人であった。大学生の実習を受け入れる施設が多かったため、本学の臨地実習に対する考え方を前向きに受け入れてもらえ、実習の導入につながった。
③学生に対する授業評価アンケートの実施状況
a. 実施の有無及び実施時期
大学のFD/SD委員会の計画に沿って看護学科も前期と後期に実施している。（1年生：6科目、2年生：10科目、3年生：4科目）
b. 教員や学生への公開状況、方法
・授業アンケート結果は、対象となった科目の教員に送付され、アンケート内容全体に対するコメントを掲示している。

（注）・「①ａ　委員会の設置状況」には，関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には，実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（３） 教育課程連携協議会に関する事項
※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

（４） 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
本学は、保健医療を通して社会に貢献すべく「人に優しい」をモットーとする「技術と心のバランスの取れた人材の育成」を目指す基本理念のもとに、(ア)幅広い教養と高い倫理観を備え、社会の変化に応え得る専門知識と技術を有し、(イ)医療機関や福祉施設等において活躍するとともに、(ウ)地域における保健医療のリーダーとして貢献できる人材を育成することを目的として「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」を建学の精神とする大学であり、「仁愛・知識・技術」を教育理念としている。
この教育理念を実現するために、先ず、幅広い教養と高い倫理観を修得する教育を行う。その上で、対象者の立場を理解し「人に優しく思いやりのある心」での行動や態度を為すための教育を行う。それと同時に、看護及び助産に関する基礎から応用に至る専門知識と技術を身につけ、他職種と協働するためのコミュニケーション能力及び生涯にわたって学修するという心構えを身につけるための教育を行い、これにより、看護及び助産の専門職業人として「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」を目指している。（28）

本学では、建学の精神である「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」を受けて、教育理念を「仁愛・知識・技術」として掲げている。すなわち保健医療活動を通して一人ひとりの患者さんの心に寄り添い、専門知識と技術を基本に社会が抱える問題を解決する能力を有する「技術と心のバランスの取れた人材」を育てることである。一方、少子・高齢社会が進む我が国おいて人々の多様化する健康ニーズに対応できる看護師と出生率向上を支援する助産師の育成は極めて重要な課題である。このような社会の要請を受けて本学保健医療学部に設置した看護学科では、「(a)幅広い教養と高い倫理観を備え、社会の変化に応え得る専門知識と技術を有し、(b)医療機関や福祉施設等において活躍するとともに、(c)地域における保健医療のリーダーとして貢献できる人材の育成」を目的としている。(29)

平成２７年１２月の設置認可後、基本計画に沿った形で設置の趣旨及び目的に向かって運営している。

学生募集について、設置認可後に入学案内及び募集要項に本学の建学の精神、教育理念及びアドミッションポリシーを明示して資料請求者及び高等学校に配付し、推薦入学試験（平成２８年１月２４日）、一般一期入学試験（平成２８年２月７日）、一般二期入学試験（平成２８年３月３日）を実施した。その結果１４０名が受験し、平成２８年４月に７８名（定員８０名）の入学者を受け入れた。

教育・学修について、大学教育と４年間の円滑な学生生活の推進に向けてのガイダンスを行い、選択科目の履修登録を滞りなく実施した。この中では、本学の教育理念である人に優しいをモットーとする「技術と心のバランスの取れた人材の育成」について、時間を掛けて説明している。

又、看護学科教育課程の概要、専門職としての看護職、看護学の学び、臨地実習での学び方等については、ガイダンスとは別に時間を設けて説明し、大学における看護学の学修が理解できるようにした。また、この中では、助産学の選択について、選択の時期、選抜試験の基準等を説明し、助産師となることについての最初の動機づけを行った。

４月７日から、教養分野、専門基礎分野、専門分野の基礎看護学概論等の授業が円滑に開始している。主として教養分野の授業科目を依頼している兼任講師についても、授業が円滑に進行している。

５月９日から開始予定としている「基礎看護学実習Ⅰ」および６月２０日から開始する「基礎看護学実習Ⅱ」について、「臨地実習の手引き」それぞれの「臨地実習要項」を吟味し、それを基に実習施設への説明を行っている。学生に対しては、実習オリエンテーション及び感染防止の予防接種を終了し、実習に臨む体勢が整えられた。

看護学科の運営等について、就任予定の専任教員に就任予定者説明会を通して看護学科の設置の趣旨及び目的、教育理念等の認識を深めた。平成２８年４月着任の専任教員は教授５名、准教授１名、講師４名、助教４名計１４名であり、それぞれの担当授業科目に円滑に携わっている。

看護学科会議を月1回開催することを決定し、4月は例外的に2回実施し、看護学科の長短期目標を明確にし、教員相互が共有して、教育活動及び研究活動に臨めるようにした。

看護学科の教授は、それぞれ大学の委員会に所属し、大学の考え方の看護学科への周知・反映、看護学科の意見の反映等に向けて活動を開始している。

地域・社会との交流・連携

平成２８年４月８日に開催された看護学科会議において、以下の通り長短期目標の設定を行っている。

長期目標（平成２８年度～平成３１年度）

◎地域住民への健康教育活動を推進する。

短期目標（平成２８年度）

◎地域への社会貢献

地域住民を対象に健康に関する公開講座及び出張講座を行う。

具体的な実施時期及び実施内容については、５月以降検討協議を行う。　（平成２８年度）

平成29年度

・平成29年度学生募集活動は、オープンキャンパスで現役の看護師の話を聞くコーナーや看護教員による模擬授業などのイベントを6回実施、さらに学外の広報活動として大学説明会（4回）、高校模擬授業（24校）、高校教員向け説明会など学生確保に向けて積極的に活動を行い、開設2年目の本学のイメージ強化に努めた。また本学のホームページに看護学科の紹介コーナーを設けるなどの広報活動を行った。

・推薦入学試験Ⅰ期（平成28年11月6日）Ⅱ期（平成28年12月5日）一般Ⅰ期（平成29年2月5日）Ⅱ期（平成29年3月1日）およびセンター試験利用を実施した。平成29年度入学試験の看護学科入学者については、推薦Ⅰ期・Ⅱ期の手続き率は100%（40名）、一般Ⅰ期・Ⅱ期およびセンター試験の入学手続き率は32.7%（55名）であり、そのうち4名が辞退し、最終的に91名の入学者を受け入れた。

・教育・学修について、履修科目の指導及び助言は、全体の履修ガイダンスの後に履修指導担当教員が個々に指導を行った。１年次の開講科目については、設置計画に基づき全科目（必須科目３６単位、選択科目４単位）を滞りなく遂行することができた。

助産師選抜時期についてのガイダンスは、入学時のオリエンテーションで実施したが、後期になってから助産師を希望する数名の学生から相談があり、助産学の教員が学習方法等について個別指導を実施した。また看護学科教務委員会分科会では、助産師教育課程の選抜に向けた検討を行っている。

・看護学科のカリキュラムは、1年前期に学生10人に看護教員一人の割合でゼミ形式の演習科目が2科目あるため、学習方法などで問題を抱えた学生への対応は比較的早期に実施できている。

・教養科目14科目（内3科目選択）は全員が履修し、単位を取得している。教養分野は「ものの見方・考え方」「生活と文化」「人間と環境」「グローバルコミュニケーション」「大学における学び」の区分から科目が成り立っているため、学生は広い視野から物事をとらえる力が備わってきている。

・入学後間もない5月12日から「病院における看護活動、療養者の生活の場である病院環境と看護の役割機能について知る」ことを目的に基礎看護学実習Ⅰを、また6月20日から「看護師と患者のコミュニケーション場面を見学し、看護場面におけるコミュニケーションが果たす役割を知る」ことを目的に基礎看護学実習Ⅱを実施した。実習開始にあたっては、科目担当教員が実習の心構えや学習行動等について事前に説明会を開催した。この時期に病院施設に入って看護師の行動を見学することは、看護専門職を目指す学生たちにとって学習意識の向上につながっていた。

・看護学科の運営については、看護学科会議を8回開催した。平成28年度の短期目標として①教育課程を滞りなく遂行する②教員の教育・研究環境を整える③地域住民への健康教育活動を推進する④リハビリテーション学科との連携を図る　を掲げ、1年目に着任した14名の教員が相互に協力しながら教育と研究活動に従事した。また教授は大学の各種委員会に所属し、学内に看護学教育の理解を広める役割を担った。

・地域社会との交流・連携については、多摩センター地域包括支援センターから「さくらんぼの会(寝たきりゼロを目指す会）」の講演依頼があり、平成28年8月31日に在宅看護学講師の関川久美子が「いまからの私・健康で」のテーマで講演を行った。参加者は30名であった。

平成30年度

・平成２７年１２月の設置認可後、基本計画に沿った形で設置の趣旨及び目的に向けて運営している。

・平成３０年度学生募集について、例年通り年６回のオープンキャンパス及び看護学科教員による高校訪問実施（計１８校）など行った。特にオープンキャンパスでは延べ３３８名（昨年２３６名）の看護学科希望者が来校し、模擬講義や体験コーナーを通して、本学の特色や３つのポリシーについての説明を行った。

・入学試験については、推薦入学試験Ⅰ期（平成２９年１１月１２日）Ⅱ期（平成２９年１２月１７日）一般Ⅰ期（平成３０年２月４日）Ⅱ期（平成３０年３月４日）およびセンター試験利用を実施した。平成３０年度入学試験の看護学科入学者については、推薦Ⅰ期・Ⅱ期の手続き率は１００％（４０名）、一般Ⅰ期・Ⅱ期およびセンター試験の入学手続き率は３３．１％（５０名）であり、そのうち６名が辞退し、最終的に８４名の入学者を受け入れた。

・教育及び学修については、全体の履修ガイダンスの後に履修指導担当教員が、個々に履修科目の指導及び助言指導を行った。１年次の開講科目については、設置計画に基づき全科目（必須科目３６単位、選択科目４単位）を滞りなく遂行することができた。また２年次の開講科目については、設置計画に基づき全科目（必須科目４０単位、選択科目１単位）を滞りなく遂行することができた。

・教養分野「大学における学び」のスタディスキルセミナーは昨年度の反省を踏まえて、コミュニケーション技法やレポートの書き方を早い時期に組み入れることで、５月と６月の基礎看護学実習ⅠおよびⅡの実習の際に生かすことができている。

・専門分野では、２年次に各領域看護学の講義と演習科目が開講し、学生は看護の対象に応じた専門的知識・技術を修得するとともに、自分が目指す看護の専門分野への興味や関心を持ち始めている。また各領域では、関連する授業科目の授業参観を実施しており、授業内容の重複や欠落に対する調整を行っている。

・助産師課程を選択するためのガイダンスは、２年次の４月と１０月に全員に実施し、１２月末に１０名の学生が選択希望の申請書を提出した。３月１３日に学長、学科長、助産師課程教授および事務局長の４名で面接を実施し、１０名の選抜者を教授会に報告するとともに学生に通知した。３年次からの助産師課程のカリキュラムが厳しいことを踏まえ、３年次の３月に再度選択の継続意思の確認を行うことにしている。

・看護学科の運営については、看護学科会議を１１回開催した。平成２９年度の短期目標として①教育課程を滞りなく遂行する②教員の教育・研究環境を整える③地域住民への健康教育活動を推進する④リハビリテーション学科との連携を図ることの４項目を掲げ、２９名の教員が相互に協力しながら教育と研究活動に従事した。また教授は大学の各種委員会に所属し、学内に看護学教育の理解を広める役割を担った。
　リハビリテーション学科との連携については、入学時ガイダンスの最終日に両学科の新入生を対象に交流会を企画し、ワールドカフェなどのゲームを取り入れることで、同じ医療従事者を目指した学生同士および教員との交流の機会となった。今後は、学年の進行に合わせて合同セミナーを開催できるように企画検討をしている。

２年次に初めて患者さんを受け持ち実際に看護を実践する基礎看護学実習Ⅲの前に、「看護のキャリアデザインを考える会」を実施した。この会は「キャリア・ディブロップメント」の授業の最終回に組み入れており、臨地実習を前に、改めて看護学生としての心構えと責任について考えることと、将来看護師として歩む自分に向けて問いかける機会となることを目的としている。会の中では、同級生と保護者に向けて入学してからの学修成果と将来の夢について自分の言葉で発表する機会を設けているが、個々の言葉の中には本学の教育理念である「仁愛・知識・技術」に触れるなど、入学後２年間の教育の学修成果がみられている。

・地域社会との交流・連携については、老年看護学の授業の一環として大学の近隣地域に住む高齢者と学生の交流の機会を設けている。また教員による講演は、平成２９年１１月に開催された大学祭の公開講座として在宅看護学の久保川真由美准教授が「病気になっても自宅で暮らそう」というテーマで講演を行った。

令和元年度

・平成２７年１２月の設置認可後、基本計画に沿った形で設置の趣旨及び目的に向けて運営している。

・平成３1年度の学生募集については、看護学科教員による高校訪問と模擬授業（19回）、予備校での説明会（2回）および近隣の高校生が来校して大学の授業を聴講する機会を設けた。また高校訪問の際に体験型大学説明会を実施した。
オープンキャンパスは年６回開催し、看護学科希望者は延べ３３３名であった。看護学科のカリキュラムをはじめ高齢者体験や母性看護学の模擬授業を通して本学の特色について伝えた。

・入学試験は、推薦入学試験1期（平成30年11月11日）、2期（平成30年12月16日）一般入学試験1期（平成31年2月3日）、2期（平成31年3月3日）およびセンター試験利用を実施した。平成31年度看護学科入学者は、推薦1期・2期の入学手続き者は40名、一般1期・2期及びセンター試験の入学手続き者は61名であり、そのうち16名が辞退し、最終的に85名の入学者を受け入れた。

・教育及び学修については、全体の履修ガイダンスの後に履修指導教員が個別に履修科目の指導および助言を行った。１年次の開講科目については、設置計画に基づき全科目（必須科目３６単位、選択科目４単位）を滞りなく遂行することができた。また２年次の開講科目については、設置計画に基づき全科目（必須科目４０単位、選択科目１単位）を滞りなく遂行することができた。　３年次の開講科目については、設置計画に基づき全科目（必須２７単位、選択科目１０単位）を滞りなく遂行することができた。また３年次前期からは助産学課程を選択した１０名が、設置計画に基づき全科目（選択科目１４単位）を滞りなく遂行することができた。

・助産師課程の選択を希望した学生は、2年次の12月末までに選択希望申請書（①助産師課程を選択する理由、②現代社会における母子保健上の課題を踏まえて将来助産師としてどのように活躍したいか）を提出し、学長、看護学科長、助産学教授、事務局長の４名が面接を実施し（3月13日）希望者１０名全員を合格とした。

・専門分野では、3年次後期から各領域別の看護学実習が開始し、学生は受け持ち患者や利用者の看護過程を展開しながら看護の実践を体験することができている。各実習施設側の受け入れがよく、実習開始前の実習連絡会やFD研修会が指導者と担当教員の連携を効果的に進めていた。

・看護学科の運営については、看護学科会議を１１回開催した。また平成３０年度の看護学科の目標として①教育課程を滞りなく遂行する②教員の教育・研究環境を整える③地域住民への健康教育活動を推進する④リハビリテーション学科との連携を図ることの４項目を掲げ、２８名の教員が相互に協力しながら教育と研究活動に従事した。「地域住民への健康教育を推進する」ことについては、リハビリテーション学科の教員が実施している地域住民を対象とした「健康体操」に参加している。

・国家試験対策については、３年後期の臨地実習が終了後、国試対策委員会の企画で３月を「学習強化月間」として学習方法に　関する個別指導を実施し、教員と学生の双方から成果についてのアンケートを行っている。

・学生指導については、各学年に教務担当教員と生活面での学年担当教員（1・2年生は学生生活アドバイザー）が連携を取りながら学生の学習面と生活面の支援を行っている。平成３０年度は、１年生が前期に２名、後期に１名が退学し、２名が１年間の休学をとっていた。アドバイザーによる定期的な個人面談を実施していたが、健康面と人間関係において問題を抱えている学生の早期把握が困難であった。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成３０年５月１１日　公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

・平成２９年度に評価機構（公益財団法人日本高等教育評価機構）の評価を受審し、平成３０年３月に当該機構が定めている大学評価基準に適合している旨の認定を受けている。次回は平成３６年度に受審する予定となっている。

（注）・　設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また，「①　設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については，できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお，「②　自己点検・評価報告書」については，当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（5） 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）	
a ホームページに公表（予定）の有無	（ 有 ・ 無 ）
b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期	（ 令和元年 8月 31日 ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。